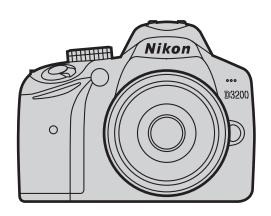
Nikon

デジタル一眼レフカメラ

D3200

使用説明書

Jp

ごあいさつ

ニコンデジタル一眼レフカメラをお買い上げくださいまして、誠にありがとうございます。お使いになる前に、使用説明書（本書）と活用ガイド（PDF形式、活用ガイドCD-ROMに収録）をよくお読みになり、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

カメラの基本的な使い方を知りたいとき：
使用説明書（本書）をお読みください。

カメラの詳しい使い方を知りたいとき：
活用ガイドCD-ROMに収録されている活用ガイドをお読みください。

活用ガイドをご覧いただくためには、Adobe Reader またはAdobe Acrobat Reader 5.0 以降が必要です。

1 パソコンを起動し、活用ガイドCD-ROMをCD-ROMドライブに入れる

2 **Windowsの場合**：［**コンピュータ**］（Windows XP の場合は［**マイコンピュータ**］）ウィンドウを開き、CD-ROM（Nikon D3200）アイコンをダブルクリックする
Macintoshの場合：デスクトップのCD-ROM（**Nikon D3200**）アイコンをダブルクリックする

3 ［**INDEX.pdf**］のアイコンをダブルクリックする
言語選択の画面が表示されます。言語をクリックすると、活用ガイドが表示されます。

表記について

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、およびSDXCメモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- ご購入時に設定されている機能やメニューの設定状態を「初期設定」と表記しています。
- 本書では、カメラの設定が初期設定であることを前提に操作の説明を行っています。

ヘルプ機能

このカメラにはヘルプ機能が付いています。メニュー操作時などに、液晶モニターでその項目の意味などを調べることができます。詳しくは□52をご覧ください。

「見て聞くマニュアル」デジチューター

インターネット上でD3200の操作方法を、動画や作例写真を交えながら説明しています。
下記アドレスのホームページをご覧ください。

http://www.nikondigitutor.com/

⚠安全上のご注意

安全にカメラをお使いいただくために守っていただきたい内容が記載されています。カメラをお使いになる前に必ずお読みください。詳しくは□iv～viiをご覧ください。

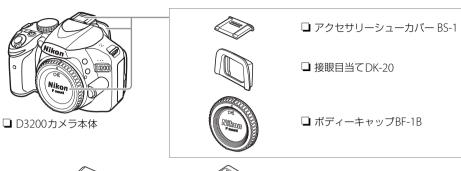
カメラと付属品を確認する

お使いになる前に、カメラと付属品が全てそろっていることを確認してください。

❑ D3200カメラ本体

❑ アクセサリーシューカバー BS-1

❑ 接眼目当てDK-20

❑ ボディーキャップBF-1B

❑ Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL14（端子カバー付）

❑ バッテリーチャージャー MH-24

❑ ストラップAN-DC3

❑ オーディオビデオケーブル EG-CP14

❑ USBケーブルUC-E17

❑ アイピースキャップDK-5 （⧉26）

❑ ViewNX 2 CD-ROM
❑ 使用説明書（本書）
❑ 活用ガイド CD-ROM（活用ガイド収録）
❑ 保証書
❑ 登録のご案内

- レンズキットの場合はレンズも付属しています。
- SD カードは付属していません。このカメラで使えるSDカードについては、⧉64をご覧ください。
- 日本国内でご購入いただいたカメラは、画面の表示言語を日本語または英語に設定できます。
- 万一、不足のものがありましたら、ご購入店にご連絡ください。

本文中のマークについて

本書は、次の記号を使用しています。必要な情報を探すときにご活用ください。

カメラを使用する前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。

カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。

⧉ 本書上で関連情報が記載されているページです。

目次

P、S、A、M モードで撮影する 36

ライブビュー撮影（液晶モニターを見ながら撮影する） 38

動画の撮影と再生 46

メニューを使う 52

ViewNX 2 56

資料 60

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しく使用し、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

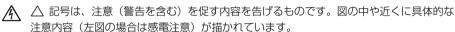
表示と意味は、次のようになっています。

危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。
警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

△ 記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止の行為（してはいけないこと）を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

 ● 記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠ 警告（カメラとレンズについて）

分解禁止	**分解したり修理や改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 バッテリー、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
バッテリーを取る すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかにバッテリーを取り出すこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 バッテリーを取り出す際、やけどに充分注意してください。 バッテリーを抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
使用禁止	**引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。
使用禁止	**レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと** 失明や視力障害の原因となります。

⚠ 警告（カメラとレンズについて）

発光禁止	**車の運転者等に向けてフラッシュを発光しないこと** 事故の原因となります。
発光禁止	**フラッシュを人の目に近づけて発光しないこと** 視力障害の原因となります。 特に乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。
保管注意	**幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届くところに置かない** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだときは直ちに医師にご相談ください。
警告	**ストラップが首に巻き付かないようにすること** 特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと。 首に巻き付いて窒息の原因となります。
使用禁止	**ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。
警告	**指定のバッテリーまたは専用ACアダプターを使用すること** 指定以外のものを使用すると、火災や感電の原因となります。

⚠ 注意（カメラとレンズについて）

感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
使用注意	**カメラの電源がONの状態で、長時間直接触れないこと** 使用中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。
保管注意	**製品は、幼児の手の届くところに置かない** ケガの原因になることがあります。
使用注意	**逆光撮影では、太陽を画角から充分にずらすこと** 太陽光がカメラ内部で焦点を結び、火災の原因になることがあります。画角から太陽をわずかに外しても火災の原因になることがあります。
保管注意	**使用しないときは、レンズにキャップを付けるか、太陽光のあたらない所に保管すること** 太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
移動注意	**三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと** 転倒したりぶつけたりして、ケガの原因となることがあります。
使用注意	**航空機内で使うときは、離着陸時に電源をOFFにすること** **病院で使うときは病院の指示に従うこと** 本機器が出す電磁波などにより、航空機の計器や医療機器に影響を与えるおそれがあります。
バッテリーを取る プラグを抜く	**長期間使用しないときは電源（バッテリーやACアダプター）を外すこと** バッテリーの液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。 ACアダプターをご使用の際には、ACアダプターを取り外し、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
発光禁止	**内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと** やけどや発火の原因になることがあります。
禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。

⚠ 注意（カメラとレンズについて）

放置禁止	**窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと** 内部の部品に悪影響を与え、火災の原因になることがあります。
禁止	**付属のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと** 機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼすことがあります。

⚠ 危険（専用リチウムイオン充電池について）

禁止	**バッテリーを火に入れたり、加熱しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
分解禁止	**バッテリーを分解しない** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**バッテリーに強い衝撃を与えたり、投げたりしない** 液もれ、発熱、破裂の原因となることがあります。
危険	**専用の充電器を使用すること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しないこと** ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。 持ち運ぶときは端子カバーをつけてください。
使用禁止	**Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14に対応していない機器には使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。 Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14は、D3200に対応しています。
危険	**バッテリーからもれた液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠ 警告（専用リチウムイオン充電池について）

保管注意	**バッテリーは、幼児の手の届くところに置かない** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
水かけ禁止	**水につけたり、ぬらさないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
警告	**変色・変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しないときは、充電をやめること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**バッテリーをリサイクルするときや、やむなく廃棄するときはビニールテープなどで接点部を絶縁する** 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービス機関やリサイクル協力店にご持参くださるか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。
警告	**バッテリーからもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと** そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

⚠ 注意（専用リチウムイオン充電池について）

使用注意	**充電中のバッテリーに長時間直接触れないこと** 充電中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。

⚠ 警告（チャージャーについて）

分解禁止	**分解したり修理や改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 チャージャーをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
プラグを抜く すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかにチャージャーをコンセントから抜くこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 チャージャーをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
使用禁止	**引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。
警告	**電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布で拭き取ること** そのまま使用すると火災の原因になります。
使用禁止	**雷が鳴り出したらチャージャーに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。
感電注意	**ぬれた手でチャージャーをコンセントから抜き差ししないこと** 感電の原因になることがあります。
禁止	**チャージャーを海外旅行者用電子式変圧器（トラベルコンバーター）やDC/ACインバーターなどの電源に接続して使わないこと** 発熱、故障、火災の原因となります。

⚠ 注意（チャージャーについて）

感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
使用注意	**通電中のチャージャーに長時間直接触れないこと** 通電中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。
放置注意	**製品は、幼児の手の届くところに置かない** ケガの原因になることがあります。
禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。

ご確認ください

● 保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

● カスタマー登録

下記のホームページからカスタマー登録ができます。

https://reg.nikon-image.com/

付属の「登録のご案内」に記載されている登録コードをご用意ください。

● カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。

http://www.nikon-image.com/support/

● 大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

● 本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（レンズ、スピードライト、バッテリー、チャージャー 、ACアダプターなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL14には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が発揮できないほか、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

● 使用説明書および活用ガイドについて

- 使用説明書および活用ガイドの一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書および活用ガイドの誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書および活用ガイドの内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書および活用ガイドのPDFファイルをダウンロードできます。
  http://www.nikon-image.com/support/manual/
  ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

● 著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の対象となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

● カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

SDカード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。SDカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

SDカードを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にSDカードがいっぱいになるまで、空や地面などの画像で置き換えることをおすすめします。なお、ホワイトバランスのプリセットマニュアル画像も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。SDカードを物理的に破壊して廃棄する場合は、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

● 電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

● AVC Patent Portfolio Licenseに関するお知らせ

本製品は、お客様が個人使用かつ非営利目的で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

(i) AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）

(ii)個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。

詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。

http://www.mpegla.com をご参照ください。

✔ アクセサリーについてのご注意

このカメラには、当社製のアクセサリーをお使いいただくことをおすすめします。他社製アクセサリーは、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製アクセサリー使用によるカメラの不具合については、保証の対象となりませんので、ご了承ください。なお、このカメラに使用できる別売アクセサリーについての最新情報は、最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください（🕮viii）。

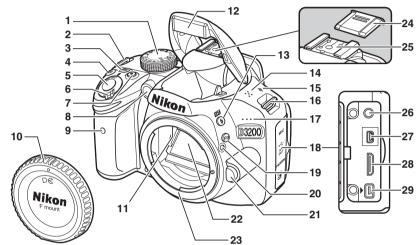
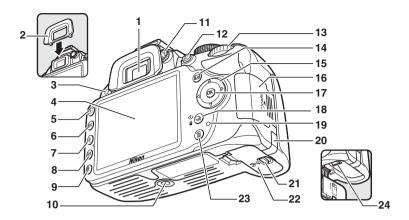
✔ カメラなどの点検サービスについて

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

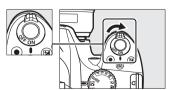
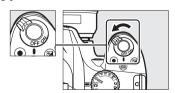
- 特に業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズや別売スピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

お使いになる前に

各部の名称と機能

カメラ本体

番号	名称	ページ
1	モードダイヤル	3
2	ストラップ取り付け部（吊り金具）	6
3	infoボタン インフォ画面表示	43
4	⊠（⊛）ボタン 露出補正 絞り変更 フラッシュ調光補正	37
5	シャッターボタン	13、14
6	電源スイッチ	2
7	動画撮影ボタン	46
8	AF補助光ランプ セルフタイマーランプ 赤目軽減ランプ	25 34
9	リモコン受光部（前面）	25
10	ボディーキャップ	
11	レンズ信号接点	
12	内蔵フラッシュ	32
13	ϟ（⊠）ボタン フラッシュモード フラッシュ調光補正	32
14	スピーカー	51
15	⊖距離基準マーク	
16	ストラップ取り付け部（吊り金具）	6
17	マイク	49
18	端子カバー	
19	Fnボタン ファンクション	
20	レンズ着脱指標	7
21	レンズ取り外しボタン	9
22	ミラー	
23	レンズマウント	
24	アクセサリーシューカバー	
25	フラッシュ取り付け部（アクセサリーシュー）	
26	外部マイク入力端子	47
27	USB/オーディオビデオ出力端子 パソコンと接続する	58
28	HDMIミニ端子	
29	アクセサリーターミナル	63

1	ファインダー接眼窓.................. 8
2	接眼目当て
3	リモコン受光部（背面）......... 25
4	液晶モニター 撮影時の設定を確認する ..... 5 ライブビューで撮影する... 38 撮影した画像を確認する... 17
5	▶ ボタン 再生 17
6	MENU ボタン メニュー.................................. 52
7	⊕ ボタン 拡大表示
8	⊖ （?）ボタン 縮小/ サムネイル表示 .... 18 ヘルプ... 52
9	i ボタン インフォ画面.........................5
10	三脚ネジ穴
11	視度調節ダイヤル....................... 8
12	AE-L AF-L （O-n）ボタン AE/AFロック 画像を保護する（プロテクト）
13	コマンドダイヤル
14	Lv ボタン ライブビュー .... 38 動画... 46
15	マルチセレクター.................... 54
16	SDカードカバー.......................... 7
17	OK OKボタン.............................. 54
18	▭（⏲/▯）ボタン レリーズモード...................... 23 セルフタイマー /リモコン 撮影.. 25
19	SDカードアクセスランプ .... 9、13
20	パワーコネクターカバー
21	バッテリー室カバー開閉ノブ 6
22	バッテリー室カバー.................. 6
23	🗑 削除ボタン 再生中の画像を削除する .. 18
24	バッテリーロックレバー 6

電源スイッチ

電源スイッチを矢印の方向に回して「ON」のマークを指標に合わせると、カメラの電源がONになります。

電源スイッチを矢印の方向に回して「OFF」のマークを指標に合わせると、カメラの電源がOFFになります。

マイク、スピーカーについてのご注意

マイクやスピーカーに磁気カードなどの磁気製品を近づけると、記録内容が壊れることがあります。マイクやスピーカーに磁気製品を近づけないでください。

モードダイヤル

モードダイヤルを回すと、次の各モードに切り換えられます。

P、S、A、Mモード（□36）

シャッタースピードや絞り値、各種設定を自分で決めて、より本格的な撮影を楽しむことができる撮影モードです。

P：プログラムオート

S：シャッター優先オート

A：絞り優先オート

M：マニュアル

GUIDEモード（□19）

ガイドを使って撮影、再生、設定の変更をすることができます。

オートモード

撮影状況に合わせて、各種設定をカメラが自動的にコントロールするので、カメラまかせで簡単に撮影することができます。デジタル一眼レフカメラを初めてお使いになる方におすすめの撮影モードです。

AUTO：オートモード（□12）

発光禁止：発光禁止オートモード（□12）

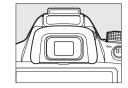
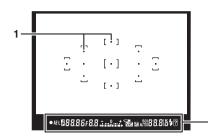
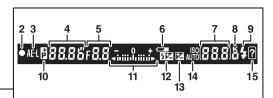
シーンモード

撮影シーンに合わせて、各種設定をカメラが自動的にコントロールするので、撮影シーンが決まっているときにおすすめの撮影モードです。

- ：ポートレートモード（□15）
- ：風景モード（□15）
- ：こどもスナップモード（□16）
- ：スポーツモード（□16）
- ：クローズアップモード（□16）
- ：夜景ポートレートモード（□16）

おまかせシーン（ライブビュー）

モードダイヤルがAUTOまたは発光禁止のときにライブビューに切り換えると、オートフォーカスに設定している状態では、「おまかせシーン」になります（□43）。

ファインダー（説明のため、全ての表示を点灯させています）

1	フォーカスポイント表示
2	ピント表示 13
3	AEロックマーク
4	シャッタースピード 36, 37
5	絞り値 37
6	バッテリー警告表示 11
7	記録可能コマ数 .... 11 連続撮影可能コマ数 .... 24 ホワイトバランスプリセット マニュアルデータ取得 モード表示 露出補正値 フラッシュ調光補正値 ISO感度 35
8	1000コマ以上補助表示 11
9	レディーライト 14
10	プログラムシフトマーク
11	インジケーター 露出 .... 37 露出補正 フォーカスエイド
12	フラッシュ調光補正マーク
13	露出補正マーク
14	ISO-AUTOマーク
15	警告表示

ファインダーについて

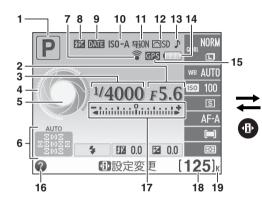
ファインダー内の表示の応答速度や明るさは、温度によって変化しますが、故障ではありません。

液晶モニター表示

インフォ画面（説明のため、全ての表示を点灯させています）

撮影に関する設定をするときは、主にインフォ画面を使います。ボタンを押すと、液晶モニターに次のようなインフォ画面を表示します。

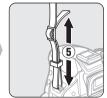
ボタン

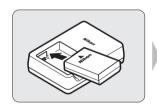
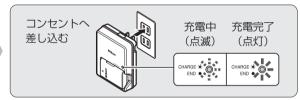
- インフォ画面を表示中に、もう一度ボタンを押すと、撮影時の設定を変更できる画面に切り替わります。マルチセレクターの▲▼◀▶を押してカーソルを動かし、項目を選んでボタンを押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

No.	項目
1	撮影モード （オート）または （発光禁止オート）で撮影する .... 12 シーンに合わせて撮影する ... 15 ガイドモード .... 19 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**を使う 36
2	絞り値 37
3	シャッタースピード...... 36、37
4	シャッタースピードイメージ
5	絞りイメージ
6	オートエリアAF設定マーク .... 29 3D-トラッキング設定マーク .... 29 フォーカスポイント
7	Eye-Fi通信マーク
8	マニュアル発光設定マーク スピードライト調光補正マーク
9	デート写し込み設定マーク
10	ISO-AUTOマーク
11	アクティブD-ライティング
12	ピクチャーコントロール
13	電子音マーク
14	バッテリー残量表示 11
15	GPS通信マーク
16	ヘルプあり表示
17	インジケーター 露出 .... 37 露出補正
18	記録可能コマ数 .... 11 ホワイトバランスプリセットマニュアルデータ取得モード表示
19	1000コマ以上補助表示 11
20	フラッシュモード 33
21	フラッシュ調光補正値
22	露出補正値
23	画質モード 30
24	画像サイズ 31
25	ホワイトバランス
26	ISO感度 35
27	レリーズモード 23
28	フォーカスモード .... 27、39
29	AFエリアモード .... 29、40
30	測光モード

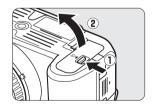
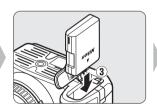
撮影前の準備

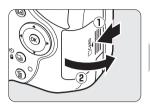
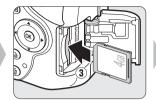
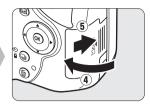
バッテリーやSDカードをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

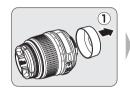
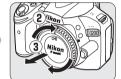
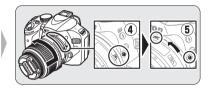
1 ストラップを取り付ける

- 下図のようにストラップをカメラに取り付けます（2カ所）。

2 バッテリーをバッテリーチャージャーで充電する

- フル充電するには約1時間30分かかります（残量のないバッテリーの場合）。

3 バッテリーを入れる

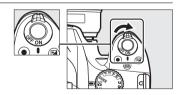
- バッテリーを入れる向きに注意してください。
- オレンジ色のバッテリーロックレバーをバッテリー側面で押しながら、バッテリーを奥まで入れると、バッテリーロックレバーがバッテリーに掛かり、バッテリーがロックされます。

4 SDカード（別売）を入れる

- 下図のように正しい向きで、カチッと音がするまで挿入してください。

5 レンズを取り付ける

- ほこりなどがカメラ内部に入らないように注意してください。

指標を合わせてカチッと音がするまで矢印の方向にレンズを回す

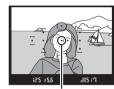
- レンズのフォーカスモードが切り換えられる場合は、**A** または **M/A** に合わせてください（使用できるレンズについては、□60をご覧ください）。

- 手ブレ補正機能を使うときは、手ブレ補正スイッチをONにしてください。
- 絞りリングのあるCPUレンズ（□61）を取り付ける場合は、最小絞り（一番大きい数値）にして、ロックしてください。

6 カメラの電源をONにする

7 日付と時刻を設定する

- ご購入後、初めて電源をONにすると、カメラの内蔵時計の日付と時刻を設定する画面が表示されます。日時の設定が完了するまで、撮影や他の設定はできません。
- マルチセレクターの▲または▼を押して、選択中の項目の数値を合わせ、▶を押して、次の項目に移動します。◀を押すと元の項目に戻ります。
- ㊖ボタンを押して日付と時刻の設定を完了します。

8 ファインダーを見やすくする

- ファインダーで構図を決めながら撮影する場合は、あらかじめ、ファインダー内がはっきり見えるように視度調節ダイヤルを回して調節してください。
- レンズキャップを取り外し、ファインダーをのぞきながら視度調節ダイヤルを回し、フォーカスポイントが最もはっきり見えるように調節してください。
- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。

フォーカスポイント

チャージャーの使用上のご注意

- 充電中にチャージャーをゆすったり、充電中のバッテリーに触れたりすると、振動や静電気の影響により、きわめてまれではありますが、未充電にもかかわらず充電完了表示になる場合があります。このような場合にはバッテリーを取り外し、再度セットして充電を再開してください。
- チャージャーの端子をショートさせないでください。発熱、破損の原因となります。
- チャージャーを使用しないときは、チャージャーをコンセントから抜いてください。
- バッテリーチャージャーMH-24に対応していないバッテリーは、バッテリーチャージャー MH-24で充電しないでください。

チャージャーの「CHARGE」ランプが速く（1秒間に8回）点滅する場合

- **バッテリーのセットミス**：チャージャーをコンセントから抜いて、バッテリーを取り外し、チャージャーにセットし直してください。
- **指定温度外での使用**：チャージャーを指定温度範囲内（0 ～ 40℃）でお使いください。
- さらに不具合が続く場合は、ただちにチャージャーをコンセントから抜いて、充電を中止してください。販売店またはニコンサービス機関にチャージャーおよびバッテリーをお持ちください。

バッテリーの使用上のご注意

- お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」（□iv～vii）、「カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意」（□66～67）をお読みになり、記載事項をお守りください。
- バッテリーは0～40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。バッテリーの性能が劣化したり、故障の原因となります。
- 周囲の温度が5～35℃の室内で充電してください。バッテリーの温度が0℃以下、60℃以上のときは、充電をしません。
- バッテリーの温度が0 ～ 15℃、45 ～ 60℃のときは、充電できる容量が少なくなる、または充電時間が長くなることがあります。

バッテリーを取り出すときは

電源をOFFにしてから、バッテリー室カバーを開けてください。バッテリーロックレバーを矢印の方向に押すと、バッテリーが少し飛び出しますので、引き抜いて取り出してください。

SDカードのフォーマット

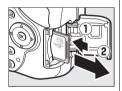
このカメラに初めて入れるSDカードや、他の機器でフォーマットされたSDカードは、セットアップメニュー［**カードの初期化（フォーマット）**］（□53）で、画面の指示に従ってフォーマットしてください。**SDカードを初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。**必要なデータがある場合は、初期化する前にパソコンなどに保存してください。

SDカード取り扱い上のご注意

- カメラの使用後は、SDカードが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。
- SDカードの初期化中や画像の記録または削除中、パソコンとの通信時などには、次の操作をしないでください。記録されているデータの破損やSDカードの故障の原因となります。
  - SDカードの着脱をしないでください
  - カメラの電源をOFFにしないでください
  - バッテリーを取り出さないでください
  - ACアダプターを抜かないでください
- 端子部に手や金属で触れないでください。
- 無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。
- パソコンで初期化しないでください。

SDカードを取り出すときは

SDカードカバーを開ける前に、SDカードアクセスランプの消灯を確認して、電源をOFFにしてください。SDカードカバーを開けて、SDカードを奥に押し込むと（①）、カードが押し出されるので、引き抜いて取り出してください（②）。

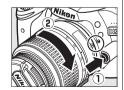
SDカードの書き込み禁止スイッチについて

- SDカードには、書き込み禁止スイッチが付いています。このスイッチを「LOCK」の位置にすると、データの書き込みや削除が禁止され、カード内の画像を保護できます。
- 「LOCK」したSDカードをカメラに入れてシャッターをきろうとすると、警告音が鳴り、撮影できません。撮影時や、画像を削除するときは「LOCK」を解除してください。

書き込み禁止スイッチ

レンズを取り外すには

カメラの電源をOFFにしてから、カメラ前面のレンズ取り外しボタンを押しながら（①）、レンズを矢印の方向にいっぱいまで回し（②）、引き抜いてください。

- レンズを取り外した後は、カメラのボディーキャップとレンズの裏ぶたをそれぞれ取り付けてください。

カメラの内蔵時計について

カメラの内蔵時計は、一般的な時計（腕時計など）ほど精度は良くありません。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

視度調節しても被写体がはっきり見えない場合は

- フォーカスモード（□27）を［**AF-S**］、AFエリアモード（□29）を［**[▫]**］（**シングルポイントAF**）に設定します。次に、中央のフォーカスポイントを選んで、コントラストの高い被写体にオートフォーカスでピントを合わせます。その状態で被写体が最もはっきり見えるように調節してください。
- 視度調節ダイヤルの範囲を超える補正が必要な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いになることをおすすめします（□63）。

関連ページ

日付と時刻を設定し直す → Y［**地域と日時**］（□53）

かんたんな撮影

バッテリーとSDカードの残量を確認する

撮影を始める前に、バッテリーの残量と記録可能コマ数を確認してください。

1 カメラの電源をONにする

2 バッテリーの残量を確認する

- インフォ画面でバッテリー残量を確認します。
- バッテリーの残量が少なくなると、ファインダー内にバッテリー警告が表示されます。

液晶モニター	ファインダー	意味
(バッテリー表示)	—	残量は充分に残っています。
(バッテリー表示)	—	残量が減り始めました。
(バッテリー表示)	(バッテリー表示)	残量は残りわずかです。予備のバッテリーを準備するか、バッテリーを充電してください。
(バッテリー表示) （点滅）	(バッテリー表示) （点滅）	バッテリーが消耗して撮影できません。バッテリーを交換するか、バッテリーを充電してください。

- 液晶モニターが消灯したときは、ⓘボタンを押すとインフォ画面が表示されます。
- ⓘボタンを押してもインフォ画面が表示されない場合、バッテリー残量がありません。バッテリーを交換するか、バッテリーを充電してください。

3 SDカードの残量を確認する

- SDカードの記録可能コマ数（これから撮影できるコマ数）が、インフォ画面またはファインダー内に表示されます。

- 記録可能コマ数が1000コマ以上あるときは「K」マークが点灯します。「K」は1000を意味しており、たとえば1260コマ撮影できるときは、右のように表示されます。
- メモリーカードの空き容量が不足しているというメッセージが表示された場合は、不要な画像を削除するか（□18）、別のSDカードに交換してください。

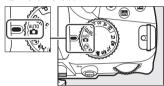
AUTO（オート）または⊘（発光禁止オート）で撮影する

撮影モードAUTOは、シャッターボタンを押すだけの簡単な操作で、さまざまな状況での撮影を楽しむことができます。暗いときや逆光のときなど、自動的にフラッシュが光ります。撮影モード⊘は、フラッシュを光らせずに撮影したい場合に使用します。

1 カメラの電源をONにする

- 電源をONにすると、インフォ画面が表示されます。
- レンズキャップを外してください。

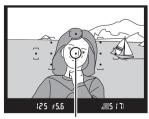
2 カメラ上面のモードダイヤルをAUTOまたは⊘に合わせる

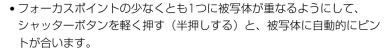
モードダイヤル

3 カメラを構える

- 脇を軽く締め、右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。
- 片足を少し前に踏み出すと、上半身が安定します。

- 人物などを縦位置で撮影する場合は、カメラを縦位置に構えます。
- 暗いときに撮影モード⊘で撮影する場合、手ブレしやすいので三脚の使用をおすすめします。

4 構図を決める

- **ファインダーをのぞいて、構図を決めてください。**
- 11点（11カ所）あるフォーカスポイントの少なくとも1つに、被写体が重なるようにしてください。

フォーカスポイント

5 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる

- フォーカスポイントの少なくとも1つに被写体が重なるようにして、シャッターボタンを軽く押す（半押しする）と、被写体に自動的にピントが合います。
- 暗い場所などでは、AF補助光が光ったり内蔵フラッシュが上がることがあります。

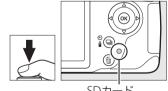
6 ファインダー内のピント表示（●）を確認する

- ピントが合うと、ピピッという電子音が鳴り、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します（被写体が動いているときは、電子音が鳴らない場合があります）。

ファインダー内ピント表示	意味
●（点灯）	被写体にピントが合っています。
●（点滅）	オートフォーカスでのピント合わせができません。

- シャッターボタンを押している間、続けて撮影できるコマ数（連続撮影可能コマ数）がファインダー内に表示されます。連続撮影可能コマ数の先頭には、「r」（□24）が付きます。
- ピント合わせができない場合は、「オートフォーカスの苦手な被写体」（□28）をご覧ください。

7 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）、撮影する

- シャッターがきれ、画像がSDカードに記録されます。
- SDカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。**SDカードやバッテリーを取り出したり、ACアダプター（別売）を取り外さないでください。**

- 撮影した画像が液晶モニターに数秒間、表示されます。
- 再生中でもシャッターボタンを半押しすると、すぐに次の撮影ができます。

イメージセンサークリーニングについて

カメラの電源をON/OFFするたびに、撮像素子の前面にあるローパスフィルターを振動させてゴミをふるい落とすイメージセンサークリーニングが作動します。

シャッターボタンの半押し

シャッターボタンは、2段階に押し込むようになっています。まず、シャッターボタンを軽く抵抗を感じるところまで押して、そのまま指を止めることを、「**シャッターボタンを半押しする**」といいます。次に、そのまま深く押し込む（これを「**シャッターボタンを全押しする**」といいます）と、シャッターがきれます。

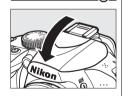
半押しタイマーについて

このカメラには、バッテリーの消耗を抑えるための「半押しタイマー」という機能があります。半押しタイマーは、シャッターボタンを半押しするとオンになり、何も操作が行われないまま約8秒経過すると、オフになります。半押しタイマーがオフになると、ファインダー内表示が消灯します。インフォ画面を表示している場合は、インフォ画面も消灯します。もう一度シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーがオンになり、元の状態に戻ります。半押しタイマーの作動時間は、セットアップメニュー［**パワーオフ時間**］で変更できます。

内蔵フラッシュについて

撮影モード AUTO では、被写体が暗い場合や逆光の場合に、シャッターボタンを半押しすると自動的に内蔵フラッシュが上がります。

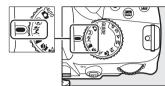
ファインダー内に ⚡（レディーライト）が点灯しているときは、シャッターボタンを全押しすると、内蔵フラッシュが発光します。内蔵フラッシュが上がっている状態で ⚡ が点灯していないときは、フラッシュが充電中のため、撮影できません。

内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます。バッテリーの消耗を防ぐため、フラッシュを使わないときは常に収納してください。

ズームレンズの使い方

被写体を大きく写したいときはズームリングを望遠側（焦点距離目盛の大きい数値側）に、広い範囲を写したいときはズームリングを広角側（焦点距離目盛の小さい数値側）に回してください。

シーンに合わせて撮影する—簡単操作でより美しく

撮影するシーンが決まっているときは、シーンに合わせて撮影モードを選ぶだけで、美しく撮影できます。撮影モードを選ぶ以外は、AUTOと同じ操作で撮影できます。

シーンモードは、モードダイヤルを回して設定します。

モードダイヤル

（ポートレート）

人物を美しく撮影したいときに使います。人物の肌をなめらかで自然な感じに仕上げます。

- 被写体と背景が離れているときや、望遠レンズを使って撮影したときは、背景がぼけて立体感のある画像になります。

（風景）

自然の風景や街並みを、色鮮やかに撮影したいときに使います。

- 内蔵フラッシュとAF補助光は光りません。
- 暗いところでは手ブレしやすいので、三脚の使用をおすすめします。

（こどもスナップ）

子供の撮影に向いています。肌の色を美しく表現すると同時に、服装や背景も鮮やかに仕上げます。

（スポーツ）

運動会などスポーツ写真の撮影に向いています。動きのある被写体の一瞬の動きを鮮明にとらえ、躍動感のある画像に仕上げます。

- 内蔵フラッシュとAF補助光は光りません。

（クローズアップ）

草花や昆虫などの小さな被写体に近づき、大きく写したいときに使います。

- マイクロレンズを使用すると、より被写体に近づいて撮影することができます。
- 手ブレしやすいので、三脚の使用をおすすめします。

（夜景ポートレート）

夕景や夜景をバックに、人物を撮影したいときに使います。人物と背景の両方を美しく表現します。

- 手ブレしやすいので、三脚の使用をおすすめします。

画像の再生と削除

撮影した画像は、撮影直後に数秒間、液晶モニターに表示されます。画像が表示されていないときに撮影した画像を確認したい場合は、▶ボタンを押すと、最後に撮影した画像が表示されます。

画像を1コマずつ再生する（1コマ表示モード）

1　▶ボタンを押す

- 撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

▶ボタン

2　マルチセレクターの◀または▶を押して他の画像を確認する

- コマンドダイヤルを回しても、表示する画像を切り換えられます。

複数の画像を表示する

撮影した画像の表示中（1コマ表示モード）に⊖（?）ボタンを押すと、複数の縮小画像（サムネイル画像）を表示する「サムネイル表示モード」になります。

72コマ表示時に⊖（?）ボタンを押すと、撮影した日付ごとに縮小画像を表示する「カレンダー表示モード」に切り替わります。

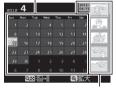
1コマ表示モード　　サムネイル表示モード　　カレンダー表示モード

複数の画像を一覧表示する（サムネイル表示モード）

- Q⊞（?）ボタンを押すたびに、4 コマ表示、9 コマ表示、72コマ表示の順に切り換えられます。
- Q+ボタンを押すと、表示コマ数が少なくなります。
- ▲▼◀▶ を押すかコマンドダイヤルを回して画像を選び、OKボタンを押すと1コマ表示モードで画像を表示します。

Q⊞（?）ボタン

撮影した日付ごとに画像を表示する（カレンダー表示モード）

- ▲▼◀▶を押して「カレンダー表示」上の日付を選んで、Q⊞（?）ボタンを押すと、指定した日付に撮影した画像を選べます。
- 「カレンダー表示」上の日付を選んでQ+ボタンを押すと、72コマ表示のサムネイル表示に切り替わります。

画像を削除する

SDカードに記録された画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのでご注意ください。

- 削除したい画像を選んで🗑ボタンを押すと、削除確認の画面が表示されます。**もう一度🗑ボタンを押すと画像が削除されます。**▶ボタンを押すと、画像の削除はキャンセルされます。

🗑ボタン

1コマ表示モード

サムネイル表示モード

カレンダー表示モード
（撮影日サムネイル表示）

GUIDE（ガイド）モードを使う

GUIDE モードでは、よく使う機能や使うと便利な機能を液晶モニターに表示されるガイドモードを使って設定できます。カメラ上面のモードダイヤルを GUIDE に合わせると、次のようなガイドモードのトップ画面を表示します。

バッテリー残量表示（□11）

記録可能コマ数（□11）

撮影モード：ガイドモードのマークが表示されます。

撮る	見る・消す	設定する
状況や被写体に合わせて撮影できるようにカメラを設定できます。 	撮影した画像を確認したり、不要な画像を削除できます。 	よく使う機能や使うと便利な機能の設定を変更できます。

GUIDEモードのメニュー一覧

モードダイヤルをGUIDEに合わせると表示される、ガイドモードのトップ画面でメニューを選んでOKボタンを押します。

[撮る] メニュー

場面にあわせて撮る

アイコン	メニュー
AUTO G	おまかせで撮る
	フラッシュを使わずに撮る
	遠くの被写体を撮る
	花や小物をアップで撮る
	子供の寝顔を撮る
	動く被写体を撮る
	風景や街並みを撮る
	ポートレートを撮る
	夜景をバックに人物を撮る

テクニックを使って撮る

モード	メニュー
A GUIDE	• 背景をぼかして撮る • 隅々までシャープに撮る 絞り値を設定して撮影します。
S GUIDE	• 人物の動きを止めて撮る • 乗物の動きを止めて撮る • 水の流れを撮る シャッタースピードを設定して撮影します。
P GUIDE	• 夕日を赤く撮る※ ホワイトバランスを調整して撮影します。
	• 明るい雰囲気で撮る※ • 落ち着いた雰囲気で撮る※ 露出を補正して撮影します。
	• ブレを防いで撮る 感度自動制御を設定して撮影します。

※ 設定した値が、[**テクニックを使って撮る**]の他の項目に反映されます。設定をリセットするには電源をOFFにし、もう一度ONにしてください。

GUIDEモードの[撮る]について

次の場合は、[**おまかせで撮る**]の設定になります。

- 電源をOFFにしてもう一度ONにしたとき
- モードダイヤルをGUIDEに合わせてから、何も設定しないで撮影するとき
- 他のモードに切り換えてからGUIDEモードに戻ったとき

撮影を始めるには

次のいずれかを選んでⓄⓚボタンを押すと、撮影を開始できます。

- ファインダーで撮る
- ライブビューで撮る
- 動画を撮る

さらに設定するには

［**さらに設定する**］を選んで▶を押すと、次の項目を設定できます※。

- フラッシュの設定
  - フラッシュモード
  - フラッシュ調光補正
- レリーズモード
- ISO感度設定
  - ISO感度
  - 感度自動制御
- ピクチャーコントロール
- 露出補正
- ホワイトバランス

※1つ前の画面で設定した内容によって設定できる内容が異なります。

G

■［見る・消す］メニュー

1 枚見る	スライドショーで見る
複数の画像を同時に見る	撮影した画像を消す
日付を選んで見る	

■［設定する］メニュー※1

画質モード	
画像サイズ	
パワーオフ時間	
デート写し込み設定	
画面表示と音の設定	
	液晶モニターの明るさ
	インフォ画面の背景色
	インフォ画面の自動表示
	電子音設定
動画の設定	
	画像サイズ/フレームレート
	動画の画質
	録音設定
	フリッカー低減
外部出力の設定	
	HDMI
	ビデオ出力

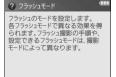
再生フォルダー設定	
再生画面設定	
プリント指定（DPOF）	
時計と言語（Language）	
	地域と日時
	言語（Language）
カードの初期化（フォーマット）	
Eye-Fi送信機能※2	
カードなし時レリーズ	

※1 GUIDEモードで設定した内容は、他の撮影モードには反映されません（［**フリッカー低減**］、［**外部出力の設定**］、［**プリント指定（DPOF）**］、［**時計と言語（Language）**］、［**カードの初期化（フォーマット）**］、［**Eye-Fi送信機能**］、［**カードなし時レリーズ**］を除く）。

※2 ［**Eye-Fi送信機能**］は、この機能に対応したEye-Fiカードを挿入したときのみ表示されます。

GUIDEモードでの操作方法

ガイドモードのトップ画面を表示する 消灯した画面を点灯させる		MENUボタンを押します。
メニューを選ぶ		ガイドモードのトップ画面でマルチセレクターの◀と▶を押してメニューを選択します。
項目を選ぶ		▲と▼を押して項目を選択します。
		右のような画面のときは、▲▼◀▶を押して項目を選択します。
選んだ項目を設定する		㊋ボタンを押します。
前の画面に戻る		◀を押します。
		右のような画面のときに、項目を選択せず前の画面に戻りたいときは、⮌を選んで㊋ボタンを押します。
項目のヘルプ（説明）を見る		画面に❓アイコンが表示されているときに⚲⊞（?）ボタンを押すと、その項目のヘルプ（説明）が表示されます。 • 説明が 2 ページ以上ある場合は、⚲⊞（?）ボタンを押しながら▼を押して、次のページを表示してください。 • ⚲⊞（?）ボタンを放すと、前の画面に戻ります。 ❓アイコン

G

撮影機能を使いこなす

単写、連写、セルフタイマー、リモコン、静音撮影モードで撮影する（レリーズモード）

シャッターをきる（レリーズする）ときの動作を設定できます。

S	**単写（1コマ撮影）**	シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影できます。	—
連写アイコン	**連写（連続撮影）**	シャッターボタンを全押ししている間、約4コマ/秒で連続撮影（連写）できます。	—
セルフタイマーアイコン	**セルフタイマー**	シャッターボタンを全押しするとセルフタイマーが作動し、10秒後にシャッターがきれます。記念撮影などに便利です。	🕮25
リモコンアイコン 2s	**2秒リモコン**	リモコンの送信ボタンを押すと、2秒後にシャッターがきれます。別売のリモコンML-L3（🕮63）が必要です。	🕮25
リモコンアイコン	**瞬時リモコン**	リモコンの送信ボタンを押すと、すぐにシャッターがきれます。別売のリモコンML-L3（🕮63）が必要です。	🕮25
Q	**静音撮影**	シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影できます。撮影後、シャッターボタンから指を放すまで、撮影後の動作音が鳴らないため、静かな場所で、できるだけ音を立てたくないときに便利です。静音撮影時には、ピントが合ったときの電子音も鳴りません。	—

1 連写アイコン（セルフタイマー/リモコン）ボタンを押す

- 設定の変更画面が表示されます。

連写アイコン（セルフタイマー/リモコン）ボタン

2 設定したいレリーズモードを選ぶ

- OKボタンを押して設定します。
- 設定後、インフォ画面に戻り撮影できます。

連続撮影についてのご注意

- 内蔵フラッシュが発光するときは、連続撮影はできません。連続撮影するには、撮影モードを㊉（発光禁止オート）（◻12）にするか、フラッシュモード（◻32、33）を［㊉］（**発光禁止**）にしてください。
- 連続撮影が終了しても、SDカードの性能や撮影条件によっては、最大で1分間程度、SDカードアクセスランプが点灯し続ける場合があります（◻2）。
- 連続撮影中にバッテリーの残量がなくなった場合は、連続撮影は中止され、撮影済みの画像データがSDカードに記録されて電源がOFFになります。

連続撮影可能コマ数の表示

- シャッターボタンを押している間、r と連続撮影可能コマ数（連続撮影速度を維持したまま続けて撮影できるコマ数）が、ファインダー内に表示されます。右図の場合、連続撮影速度を維持したままで、あと最低19コマ続けて撮影できることを示しています。
- 連続撮影は最大100コマまでできます。ただし、［r00］になったときは、連続撮影速度が低下します。
- 表示される連続撮影可能コマ数は、おおよその目安です。撮影条件によって増減することがあります。

インフォ画面

レリーズモードは、インフォ画面の操作でも設定できます（◻5）。

セルフタイマーやリモコンを使って撮影する

セルフタイマーや別売のリモコンML-L3（□63）を使って、カメラから離れた場所から静止画を撮影できます。

1 三脚などでカメラを固定する

2 レリーズモードを［Ò］（セルフタイマー）、［" 2s］（2秒リモコン）、［#］（瞬時リモコン）のいずれかに設定する（□23）

I（Ò/"）ボタン

3 構図を決める

- リモコン使用時にオートフォーカスでピントを合わせるときは、ここでカメラのシャッターボタンを半押しすると、あらかじめピントを合わせておくことができます（このとき全押ししても、シャッターはきれません）。

4 撮影する

セルフタイマー撮影の場合：

- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから、全押ししてください。タイマーが作動し、電子音が鳴り始め、セルフタイマーランプが点滅します。撮影2秒前になると点滅から点灯に変わり、電子音が鳴る間隔が短くなります。

- シャッターボタンを全押ししてから約10秒後にシャッターがきれます。
- ピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではタイマーは作動しません。

リモコン撮影の場合：

- 5m以内の距離から、リモコン送信部をカメラのリモコン受光部に向け、送信ボタンを押してください。リモコン受光部は、カメラ前面と背面の2カ所にあります（□1、2）。
- 手順2でリモコンモードを選んでから、リモコン撮影をしないまま約1分間の受信待機時間が経過すると、リモコンモードが解除され、［S］（**単写（1コマ撮影）**）、［I］（**連写（連続撮影）**）または［Q］（**静音撮影**）モードに戻ります。
- 2秒リモコンモードではセルフタイマーランプが約2秒間点灯してからシャッターがきれます。
- 瞬時リモコンモードではすぐにシャッターがきれ、撮影後にセルフタイマーランプが一瞬点灯します。
- ピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態では撮影できないことがあります。

✓ リモコンを初めてお使いになるときのご注意

リモコンにはさんである透明の絶縁シートを引き抜いてください。

ファインダーから顔を離して撮影するときは

ファインダーから入った光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、付属のアイピースキャップDK-5を取り付けることをおすすめします。アイピースキャップは、接眼目当てDK-20を取り外し（①）、右図のように取り付けます（②）。接眼目当てを取り外すときは、カメラをしっかりと支えてください。

接眼目当てDK-20

アイピースキャップDK-5

セルフタイマー、リモコン撮影時のフラッシュについて

- 内蔵フラッシュが発光する撮影モード（□32、**P**、**S**、**A**、**M**を除く）では、リモコンの受信待機状態になるとフラッシュの充電が始まり、充電完了後にリモコンの送信ボタンを押すと、必要に応じて内蔵フラッシュが自動的に上がり発光します。フラッシュの充電中にリモコンの送信ボタンを押しても、カメラは反応しません。しばらく待ってから送信ボタンを押してください。
- 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**でフラッシュを使って撮影したいときは、撮影を開始する前に⚡（⚡☒）ボタンを押して内蔵フラッシュを上げ、ファインダー内の⚡が点灯するまでお待ちください（□32）。セルフタイマーの作動中や2秒リモコンモードでリモコンの送信ボタンを押した後にフラッシュを上げると、撮影は中止されます。
- 瞬時リモコンモードの場合、赤目軽減発光（□34）を組み合わせたフラッシュモードでは、赤目軽減ランプが約1秒間点灯してからシャッターがきれます。2秒リモコンモードの場合、セルフタイマーランプが約2秒間点灯した後、赤目軽減のために赤目軽減ランプが約1秒間点灯してからシャッターがきれます。

セルフタイマー、リモコン撮影の解除について

作動中のタイマーまたはリモコンの待機状態を解除するには、電源をOFFにしてください。電源をOFFにすると、レリーズモードは、［S］（**単写（1コマ撮影）**）、［□］（**連写（連続撮影）**）または［Q］（**静音撮影**）モードに戻ります。

関連ページ

- セルフタイマーの作動時間や連続撮影コマ数を変更する　→　Y［**セルフタイマー**］（□53）
- リモコンの受信待機時間を変更する　→　Y［**リモコン待機時間**］（□53）
- セルフタイマー、リモコン撮影時の電子音を消す　→　Y［**電子音設定**］（□53）

ピントを自動で合わせる（オートフォーカス）

ファインダーを見ながら撮影するときの、オートフォーカスでのピントの合わせ方について説明します。

フォーカスモードを選ぶ

ピントの合わせ方を設定します。

AF-A	**AFサーボモード自動切り換え**	被写体が静止しているときは［**AF-S**］、動いているときは［**AF-C**］に自動的に切り替わります。ピントが合っていないときはシャッターはきれません。
AF-S	**シングルAFサーボ**※	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。ピントが合っていないときはシャッターはきれません。
AF-C	**コンティニュアスAFサーボ**※	動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、カメラは被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。ピントが合っていないときはシャッターはきれません。
MF	**マニュアルフォーカス**	手動でピントを合わせます。

※ 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で選べます。

1 インフォ画面でⓘボタンを押す

- 液晶モニターが消灯しているときは、ⓘボタンを押すと、インフォ画面が表示されます。

ⓘボタン　インフォ画面

2 ［フォーカスモード］を選ぶ

- ［**フォーカスモード**］を選んでⓞボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したいフォーカスモードを選ぶ

- ⓞボタンを押して設定します。
- シャッターボタンを半押しすると、インフォ画面に戻り、撮影できます。

予測駆動フォーカスについて

ファインダー撮影時のAFモードが［**AF-C**］のときや、［**AF-A**］に設定していて自動的に［**AF-C**］に切り替わったときは、シャッターボタンの半押し時に被写体が近づいてくるのをカメラが認識すると、自動的に予測駆動フォーカスに切り替わります。予測駆動フォーカスが作動すると、シャッターがきれる時点での到達位置を予測しながらピントを合わせ続けます。

［AF-C］コンティニュアスAFサーボについてのご注意

［**AF-C**］は、シャッターチャンスを逃さないために、［**AF-S**］よりもシャッターのきれるピントの範囲が広くなっています。このため、ファインダー内のピント表示（●）が点灯する前にシャッターがきれることがあります。［**AF-A**］に設定していて自動的に［**AF-C**］に切り替わった場合でも、同様の動作をします。

オートフォーカスの苦手な被写体

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができず、シャッターがきれないことや、ピントが合っていなくても電子音が鳴ってピント表示（●）が点灯し、シャッターがきれることがあります。このような場合は、マニュアルフォーカスでピントを合わせるか、フォーカスロックを利用してください。

被写体の明暗差がはっきりしない場合
（白壁や背景と同色の服をきている人物など）

被写体の明暗差が極端に異なる場合
（太陽を背景にした日陰の人物など）

フォーカスポイント内に遠くのものと近くのものが混在する被写体
（オリの中の動物など）

背景に対してメインの被写体が小さい場合
（遠くの建物を背景に近くの人物を撮影する場合など）

連続した繰り返しパターンの被写体
（ビルの窓やブラインドなど）

絵柄が細かい場合
（一面の花畑など）

AFエリアモードを選ぶ

ピントを合わせるフォーカスポイントをカメラがどのように選択するかを設定します。

[□] シングルポイントAF	フォーカスポイントを自分で選べます。選んだフォーカスポイントだけを使ってピント合わせをします。静止している被写体の撮影に適しています。
[⊡] ダイナミックAF※	フォーカスポイントを選ぶのはシングルと同じですが、フォーカスモード（□27）が［**AF-A**］または［**AF-C**］のときに、選んだフォーカスポイントから被写体が一時的に外れてしまった場合でも、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を使ってピントを合わせます。不規則な動きをする被写体の撮影に効果的です。
[3D] 3D-トラッキング（11点）※	フォーカスポイントを選ぶのはシングルと同じですが、フォーカスモード（□27）が［**AF-A**］または［**AF-C**］のときに、選んだフォーカスポイントで被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、構図の変化に合わせて、フォーカスポイントを自動的に切り換えてピントを合わせ続けます。
[▬] オートエリアAF	カメラが自動的に、全てのフォーカスポイントから被写体を判別してピントを合わせます。

※フォーカスモードが［**AF-S**］のときは選べません。

1 インフォ画面で i ボタンを押す

- 液晶モニターが消灯しているときは、i ボタンを押すと、インフォ画面が表示されます。

i ボタン

インフォ画面

2 ［AFエリアモード］を選ぶ

- ［**AFエリアモード**］を選んで OK ボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したいAFエリアモードを選ぶ

- OK ボタンを押して設定します。
- シャッターボタンを半押しすると、インフォ画面に戻り、撮影できます。

画質や画像のサイズを変更する

画質モードを設定する

画像を記録するときのファイル形式と画質を設定できます。

画質モード		ファイル形式	説明
RAW		NEF	撮像素子の生データ（12bit圧縮RAW形式）を記録します。撮影時に設定したホワイトバランスやコントラストなどを、撮影後に変更できます。
FINE	高 ▲	JPEG	画像データは約1/4に圧縮されます。
NORMAL	画質	JPEG	画像データは約1/8に圧縮されます。
BASIC	▼ 低	JPEG	画像データは約1/16に圧縮されます。
RAW+FINE		NEF+JPEG	RAWとJPEG（FINE）の2種類の画像を同時に記録します。

1 インフォ画面でiボタンを押す

- 液晶モニターが消灯しているときは、iボタンを押すと、インフォ画面が表示されます。

iボタン

インフォ画面

2 ［画質モード］を選ぶ

- ［**画質モード**］を選んでOKボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したい画質モードを選ぶ

- OKボタンを押して設定します。
- シャッターボタンを半押しすると、インフォ画面に戻り、撮影できます。

画像サイズを設定する

画像を記録するときのファイルサイズを設定できます。

画像サイズ		画像の大きさ	プリント時の大きさ※（出力解像度300dpiの場合）
L サイズL	大	6016×4000ピクセル	約50.9×33.9 cm
M サイズM	サイズ	4512×3000ピクセル	約38.2×25.4 cm
S サイズS	小	3008×2000ピクセル	約25.5×16.9 cm

※ピクセル数÷出力解像度（dpi）×2.54 cmで計算しています。

1 インフォ画面でiボタンを押す

- 液晶モニターが消灯しているときは、iボタンを押すと、インフォ画面が表示されます。

iボタン

インフォ画面

2 ［画像サイズ］を選ぶ

- ［**画像サイズ**］を選んでOKボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したい画像サイズを選ぶ

- OKボタンを押して設定します。
- シャッターボタンを半押しすると、インフォ画面に戻り、撮影できます。

ファイル名について

- このカメラで撮影した画像には、DSC_nnnn.xxx という名前が付けられます。nnnn には撮影順に0001～9999までの数字が入ります。xxxには選んだ画質モードによって、次の拡張子が入ります。
  - NEF：RAWの場合
  - JPG：FINE/NORMAL/BASICの場合
  - MOV：動画の場合
  - NDF：イメージダストオフデータの場合
- 画質モード［**RAW＋FINE**］で撮影した場合、ファイル名は同じですが、拡張子がそれぞれNEF（RAW画像）とJPG（FINE画像）になります。

内蔵フラッシュを使う

撮影状況に合わせて、カメラの内蔵フラッシュを発光させたり、発光方式（フラッシュモード）を切り換えたりすることで、暗い場所や逆光下など、さまざまな場所での撮影を楽しむことができます。

■撮影モードAUTO、、、、の場合

1　フラッシュモードを設定する（□33）

2　シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてから撮影する

- 暗いときや逆光のときなど、必要に応じて自動的に内蔵フラッシュが上がり、発光します※。フラッシュが不要な場合はフラッシュは上がらず、発光しません。
  フラッシュが自動的に上がらないとき、手で無理に上げないでください。内蔵フラッシュが破損するおそれがあります。

※内蔵フラッシュを発光させたくないときは、フラッシュモードを発光禁止にしてください（□33）。

■撮影モードP、S、A、Mの場合

1　⚡（⚡±）ボタンを押して、内蔵フラッシュを上げる※

⚡（⚡±）ボタン

2　フラッシュモードを設定する（□33）

3　シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてから撮影する

※内蔵フラッシュを上げているときは、周囲の明るさなどにかかわらず、フラッシュは常に発光します。発光させないようにするには、内蔵フラッシュを収納してください。

内蔵フラッシュの収納

内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます。バッテリーの消耗を防ぐため、フラッシュを使わないときは常に収納してください。

フラッシュモードを設定する

設定できるフラッシュモードは、撮影モードによって異なります。

AUTO、(子供)、(スポーツ)、(クローズアップ)	
⚡AUTO	通常発光オート（自動発光）
⚡◉AUTO	赤目軽減オート（自動発光）
⊛	発光禁止

(夜景ポートレート)	
⚡◉AUTO SLOW	赤目軽減オート（自動発光） ＋スローシャッター
⚡AUTO SLOW	通常発光オート（自動発光） ＋スローシャッター
⊛	発光禁止

P、A	
⚡	通常発光
⚡◉	赤目軽減発光
⚡◉SLOW	赤目軽減発光 ＋スローシャッター
⚡SLOW	通常発光＋スローシャッター
⚡REAR	後幕発光＋スローシャッター※

※ フラッシュモードを設定すると、**SLOW** の文字も表示されます。

S、M	
⚡	通常発光
⚡◉	赤目軽減発光
⚡REAR	後幕発光

1 インフォ画面で ⓘ ボタンを押す

- 液晶モニターが消灯しているときは、ⓘ ボタンを押すと、インフォ画面が表示されます。

ⓘボタン

インフォ画面

2 ［フラッシュモード］を選ぶ

- ［**フラッシュモード**］を選んで ⓞⓚ ボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したいフラッシュモードを選ぶ

- ⓞⓚ ボタンを押して設定します。
- シャッターボタンを半押しすると、インフォ画面に戻り、撮影できます。

フラッシュモード表示について

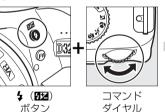
各フラッシュモードのアイコンの意味は次の通りです。

- **AUTO 通常発光オート（自動発光）**：暗いときや逆光のときに、自動的に内蔵フラッシュが上がり、必要に応じて発光します。
- **◎ 赤目軽減発光**：人物撮影に適しています。フラッシュが発光する前に、赤目軽減ランプが点灯して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。
- **⊘ 発光禁止**：暗いときや逆光のときでも、内蔵フラッシュは発光しません。
- **SLOW スローシャッター**：夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードが遅くなります。
- **REAR 後幕発光**：通常発光時はシャッターが開くと同時にフラッシュが発光します（先幕発光）が、後幕発光ではシャッターが閉じる直前にフラッシュが発光します。動いている被写体の後方に流れる光や軌跡などを表現したい場合などに適しています。

先幕発光

後幕発光

コマンドダイヤルでの設定方法

- フラッシュモードは、コマンドダイヤルを使って変更することもできます。⚡（⚡☒）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、インフォ画面のフラッシュモード表示が変わります。
- 撮影モードP、S、A、Mでは、⚡（⚡☒）ボタンを押すと内蔵フラッシュが上がるので、⚡（⚡☒）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回してください。

⚡（⚡☒）ボタン　＋　コマンドダイヤル

内蔵フラッシュについてのご注意

- 内蔵フラッシュを使って撮影するときは、カメラを被写体から0.6m以上離してください。
- 内蔵フラッシュ撮影が可能なレンズについては活用ガイドをご覧ください。フラッシュの光がさえぎられることがあるので、レンズフードは取り外してください。また、マクロ付きズームレンズのマクロ領域ではお使いになれません。
- 内蔵フラッシュを連続して使うと、発光部を保護するために、一時的に発光が制限され、シャッターがきれなくなる場合があります。少し時間をおくと再び使えるようになります。

内蔵フラッシュ撮影時のシャッタースピード制限について

内蔵フラッシュ撮影時のシャッタースピードは、次の範囲で制限されます。

モード	シャッタースピード
AUTO、（ポートレート）、（クローズアップ）、P、A	1/200～1/60秒
（夜景ポートレート）	1/200～1/30秒
（アイコン）	1/200～1秒

モード	シャッタースピード
S	1/200～30秒
M	1/200～30秒、Bulb

スローシャッター時は、シャッタースピードの低速側の制限が自動的に30秒まで延長されます。

ISO感度を設定する

ISO感度は、フィルムカメラで使うフィルムのISO感度に相当します。一般的に、ISO感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。このため、暗い場所での撮影や動いている被写体の撮影などに効果的ですが、一方で、撮影した画像に多少ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。

設定できるISO感度は、撮影モードによって異なります。

AUTO、	AUTO
、、、、 、	AUTO、100～6400（1段ステップで設定できます）、Hi 1
P、S、A、M	100～6400（1段ステップで設定できます）、Hi 1

- ［**AUTO**］ではカメラが自動的にISO感度を決めます。
- ［**Hi 1**］（ISO 12800相当）で撮影した画像には、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が特に発生しやすくなります。

1 インフォ画面でボタンを押す

- 液晶モニターが消灯しているときは、ボタンを押すと、インフォ画面が表示されます。

ボタン

インフォ画面

2 ［ISO感度］を選ぶ

- ［**ISO感度**］を選んでボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したいISO感度を選ぶ

- ボタンを押して設定します。
- シャッターボタンを半押しすると、インフォ画面に戻り、撮影できます。

P、S、A、Mモード で撮影する

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**では、撮影の意図に応じて、シャッタースピードと絞り値のそれぞれを自分で設定したり、カメラまかせにしたりすることができます。

P：プログラムオート

被写体の明るさに応じて、露出が適正になるようにカメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。シャッターチャンスを逃したくないスナップなど幅広い撮影に適しています。

- コマンドダイヤルを回して、露出を一定にしたままシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変える「プログラムシフト」も行えます。

コマンドダイヤル

S：シャッター優先オート

シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。動きの速い被写体の撮影や、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調する撮影に適しています。

- シャッタースピードは、コマンドダイヤルを回して設定します。

コマンドダイヤル

露出について

シャッタースピードと絞り値を調整して、画像を意図した明るさ（露出）で撮影することを、「露出を合わせる」といいます。同じ露出の画像でも、シャッタースピードと絞り値の組み合わせによって、撮影される画像の流動感や背景のぼかし具合などが変わってきます。

速いシャッタースピードのとき
シャッタースピード：1/1600秒

遅いシャッタースピードのとき
シャッタースピード：1秒

絞りを開いたとき（絞り値が小さいとき）
絞り値：F5.6

絞りを絞り込んだとき（絞り値が大きいとき）
絞り値：F22

A：絞り優先オート

絞り値を自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。絞りを開く（絞り値を小さくする）と、背景をぼかしてメインとなる被写体を浮き立たせた写真を撮影できます。絞りを絞り込む（絞り値を大きくする）と、近くから遠くまでピントのあった写真を撮影できます。

コマンドダイヤル

- 絞り値は、コマンドダイヤルを回して設定します。
- 設定できる最小絞り、開放絞りはレンズによって異なります。

M：マニュアル

シャッタースピードと絞り値の両方を自分で決定します。花火や星空などを長時間露出（バルブ、タイム）撮影で撮影する場合にもこの撮影モードを使います。

- シャッタースピードは、コマンドダイヤルを回して設定します。
- 絞り値は、☒（㊋）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回して設定します。
- 設定できる最小絞り、開放絞りはレンズによって異なります。

☒（㊋）ボタン

コマンドダイヤル

露出インジケーターについて

設定したシャッタースピードと絞り値の組み合わせによる露出値と、カメラが測光した露出値との差が、ファインダー内とインフォ画面に表示されます。この「露出インジケーター」の見方は次の通りです。

適正露出	1/3段アンダー	2段以上オーバー
− . 0 . +	− . 0 . +	− . 0 . +

- 被写体が明るすぎ、または暗すぎてカメラの測光範囲を超えた場合は、露出インジケーターが点滅します。
- 長時間露出（バルブ、タイム）撮影時と非CPUレンズ使用時は、露出インジケーターは表示されません。

ライブビュー撮影

（液晶モニターを見ながら撮影する）

ライブビュー撮影する

1 [Lv]ボタンを押す

- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、液晶モニターに被写体が表示されます。

[Lv]ボタン

2 フォーカスポイントを被写体に重ねる

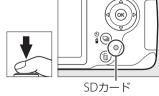
- フォーカスポイントの形状は［**AFエリアモード**］によって異なります（□40）。

フォーカスポイント

3 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる

- 半押し時のフォーカスポイントは、オートフォーカス作動中は緑色で点滅し、ピントが合うと緑色で点灯します。ピントが合わないと赤色で点滅します。
- [AUTO]と[発光禁止]以外の撮影モードでは、AE-L AF-L（[O-n]）ボタンを押し続けている間、露出を固定（AEロック）できます。

4 シャッターボタンを全押しして、撮影する

- 撮影時は液晶モニターが消灯します。
- シャッターがきれ、画像がSDカードに記録されます。
- SDカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。**SDカードやバッテリーを取り出したり、ACアダプター（別売）を取り外さないでください。**

SDカード
アクセスランプ

- 撮影した画像が液晶モニターに数秒間、表示されます。
- 再生中でもシャッターボタンを半押しすると、すぐに次の撮影ができます。
- ライブビューを終了する場合は、[Lv]ボタンを押します。

ライブビュー撮影時のフォーカスモードを選ぶ

ライブビュー撮影時のピントの合わせ方を設定します。

AF-S　シングルAFサーボ	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
AF-F　常時AFサーボ	動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しするまで、カメラは被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
MF　マニュアルフォーカス	手動でピントを合わせます。

1 ライブビュー表示中に i ボタンを押す

- ライブビュー撮影時の設定が変更できるようになります。

i ボタン

2 ［フォーカスモード］を選ぶ

- ［フォーカスモード］を選んで OK ボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したいフォーカスモードを選ぶ

- OK ボタンを押して決定します。
- i ボタンを押すと、ライブビュー画面に戻ります。

ライブビュー撮影時のAFエリアモードを選ぶ

ライブビュー撮影時に、ピントを合わせるフォーカスポイントをカメラがどのように選択するかを設定します。撮影モード、の場合は設定できません。

顔認識AF	記念写真など、人物の顔にピントを合わせたい場合に適しています。
ワイドエリアAF	風景などを手持ちで撮影する場合に適しています。フォーカスポイントは任意の位置に移動できます。
ノーマルエリアAF	画面の任意の位置にピンポイントでピントを合わせたい場合に適しています。三脚の使用をおすすめします。
ターゲット追尾AF	指定した被写体に追尾させてフォーカスポイントを動かしたい場合に適しています。

1 ライブビュー表示中にボタンを押す

- ライブビュー撮影時の設定が変更できるようになります。

ボタン

2 ［AFエリアモード］を選ぶ

- ［AFエリアモード］を選んでボタンを押すと、設定の変更画面が表示されます。

3 設定したいAFエリアモードを選ぶ

- ボタンを押して決定します。
- ボタンを押すと、ライブビュー画面に戻ります。

Lv

ライブビュー撮影時のフォーカスポイントを選ぶ

ライブビュー撮影時のAFエリアモード（□40）の設定に応じて、フォーカスポイントを選んで、構図を自由に変えられます。

1 **ライブビュー撮影時の［AFエリアモード］を設定する（□40）**

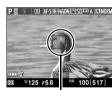
2 **フォーカスポイントを被写体に重ねる**

- ［**AFエリアモード**］が［**顔認識AF**］（□40）の場合は、カメラが人物の顔を自動的に認識し、フォーカスポイントが黄色の二重枠に変わります。複数の顔を認識した場合（最大35人まで）は、カメラが最も近いと判断した人物の顔を二重枠で表示します。このとき、マルチセレクターの▲▼◀▶を押して二重枠を移動して、他の顔を選ぶこともできます。途中で顔が後ろを向くなどしてカメラが顔を認識できなくなると、枠が消えます。

フォーカスポイント

- ［**ワイドエリアAF**］または［**ノーマルエリアAF**］（□40）の場合は、▲▼◀▶を押して、フォーカスポイントをピントを合わせる被写体の位置に移動させます。OKボタンを押すと、フォーカスポイントは中央に移動します。

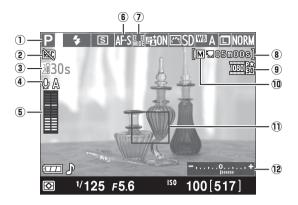
フォーカスポイント

- ［**ターゲット追尾AF**］（□40）の場合は、フォーカスポイントを被写体に重ねてOKボタンを押すと、被写体の追尾を開始し、被写体の動きに合わせてフォーカスポイントが移動します。もう一度OKボタンを押すと、追尾を終了します。

フォーカスポイント

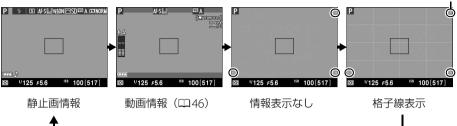
ターゲット追尾AFについてのご注意

次のような場合は、追尾動作が正常に行われないことがありますので、ご注意ください。

- 被写体の色、明るさが背景と似ている場合
- 被写体の大きさ、色、明るさが著しく変わる場合
- 被写体が大きすぎる/小さすぎる場合
- 被写体が明るすぎる/暗すぎる場合
- 被写体の動きが速すぎる場合
- 被写体が隠れたり、画面から外れた場合

▮ライブビュー撮影中の情報表示

① 撮影モード	モードダイヤルで選択中の撮影モードを表示します。	📖12、15、36
② 動画記録禁止マーク	動画が撮影できない状態のとき表示します。	📖47
③ ライブビュー残り時間	ライブビューが自動的に終了する30秒前から、ライブビュー残り時間のカウントダウンを表示します。	📖44
④ マイク感度設定	動画撮影時のマイク感度を表示します。	📖49
⑤ 音声レベル インジケーター	音声を記録するときの音量レベルを表示します。インジケーターの色が赤で表示される場合、音量が大きすぎることを示しています。マイク感度を調節してください。別売のステレオマイクロホンME-1または市販のマイクロホンを接続している場合、インジケーターの下にLとRが表示されます。	📖49
⑥ フォーカスモード	ライブビュー撮影時のフォーカスモードを表示します。	📖39
⑦ AFエリアモード	ライブビュー撮影時のAFエリアモードを表示します。	📖40
⑧ 動画記録残り時間	動画撮影時に、SDカードに記録できる残り時間を表示します。	📖46
⑨ 動画の画像サイズ	動画を記録するときの画像サイズを表示します。	📖49
⑩ 動画のマニュアル設定	撮影モードが**M**で、［**動画のマニュアル設定**］が［**する**］のときに表示されます。	📖50
⑪ フォーカスポイント	枠内の被写体にピントが合います。フォーカスポイントの形状は、選んだAFエリアモード（📖40）により異なります。	📖41
⑫ 露出インジケーター	自分で設定した露出値と、カメラが測光した露出値との差が表示されます（撮影モードが**M**の場合のみ）。	📖37

ライブビュー表示中の情報表示について

ライブビュー表示中にinfoボタンを押すたびに、次のように画面の表示が切り替わります。

- 撮影メニュー［**動画の設定**］の［**画像サイズ/フレームレート**］で、解像度が640×424ピクセル以外の場合（49）は、動画情報、情報表示なし、格子線表示時に、動画が記録される範囲を示すガイドが表示されます（動画情報表示時には、記録されない部分が薄暗く表示されます）。

おまかせシーン

モードダイヤルがAUTOまたは発光禁止のときにライブビューに切り換えると、オートフォーカスに設定している状態では、「おまかせシーン」になります。

- おまかせシーンでは、カメラが撮影シーンや被写体に合わせて最適な撮影モードを決定します。
- 液晶モニターの左上に、カメラが選んだ撮影モードのアイコンが表示されます（42）。

	ポートレート	人物を認識した場合
	風景	自然の風景や街並みを認識した場合
	クローズアップ	近接位置の被写体を認識した場合
	夜景ポートレート	夕景や夜景をバックに人物を認識した場合
AUTO	オート	上記のシーンを認識しなかった場合
	発光禁止オート	AUTOまたは発光禁止に適したシーンの場合

ライブビュー撮影時のご注意

- ライブビュー表示中は、液晶モニターの表示に次のような現象が発生することがありますが、実際に記録される画像に影響はありません。
  - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪んで表示される
  - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪んで見える
  - カメラを動かした場合、照明などの明るい部分に残像が発生する
  - 輝点が発生する
- 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、ライブビュー表示中に画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」は、セットアップメニューの［**フリッカー低減**］（□53）で低減できますが、設定しているシャッタースピードによっては、撮影した静止画に記録されることがあります。
- 次のような場合は、ライブビュー撮影を終了します。
  - モードダイヤルを**GUIDE**に変更した場合
  - モードダイヤルを**GUIDE**から他のモードへ変更した場合
  - レンズを取り外した場合
- 長時間ライブビューで撮影すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ノイズ（ざらつき、むら、輝点）が発生する場合があります。撮影時以外は、ライブビューを終了してください。
- 次のような場合は、高温によるカメラへの損傷を抑えるために、ライブビューの開始を制限したり自動的に終了したりすることがあります。
  - 撮影時の気温が高い場合
  - ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行った場合
  - 連写（連続撮影）を行った直後など

  カメラが熱くなってライブビューを開始できない場合は、カメラ内部の温度が下がるまでライブビューを一時休止してください。このとき、カメラボディー表面が熱くなることがありますが故障ではありません。
- 適正露出に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、シャッターボタンを押す前に付属のアイピースキャップDK-5を取り付けてください（□26）。
- ライブビュー表示中は、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。

ライブビュー撮影時の露出について

- ファインダー撮影時とライブビュー撮影時では、シーンによっては、露出が異なる場合があります。ライブビュー撮影時は、ライブビュー表示に適した測光を行うため、液晶モニターに表示された明るさに近い露出で撮影されます。
- 撮影モード**P**、**S**、**A**の場合、露出補正の設定ができます（1/3段ステップで±5段の範囲）。ただし、画面で露出を確認できるのは±3段の範囲に限られます。

ライブビュー残り時間のカウントダウンについて

- 自動的にライブビューを終了する30秒前から、液晶モニターの左上にカウントダウンを表示します（□42）。
  - セットアップメニュー［**パワーオフ時間**］（□53）の設定により終了する場合は、終了30秒前から黒字で表示し、終了5秒前から赤字で表示します。
  - カメラ内部の温度上昇により終了する場合は、終了30秒前から赤字で表示します。撮影条件によっては、ライブビュー開始後すぐにカウントダウンが始まることがあります。
- ライブビュー中にインフォ画面を表示している場合や画像再生時はカウントダウンを表示しませんが、カウントダウン時間でライブビューを自動的に終了します。

ライブビュー撮影時のオートフォーカスについてのご注意

- ライブビュー撮影時のオートフォーカスは、通常のオートフォーカスより、ピント合わせに時間がかかります。また、次の被写体はピントが合わない場合がありますので、ご注意ください。
  - 画面の長辺側と平行な線の被写体
  - 明暗差の少ない被写体
  - フォーカスポイント内の被写体の輝度が著しく異なる場合
  - イルミネーション、夜景などの点光源や、ネオンなど明るさが変化する被写体
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が見える場合
  - クロスフィルターなど、特殊なフィルターを使用した場合
  - フォーカスポイントに対して被写体が小さい場合
  - 連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓やブラインドなど）
  - 動く被写体
- オートフォーカス作動中は、画面の明るさが変わることがあります。
- フォーカスポイントが緑色に点滅しているとき（オートフォーカス作動中）は、シャッターはきれません。ただし、赤色に点滅しているとき（ピントがあっていないとカメラが判断したとき）でもシャッターはきれます。
- ピントが合わなくてもピント表示（緑枠）が点灯する場合があります。

動画の撮影と再生

動画を撮影する

音声付きの動画を撮影できます。

1 Lvボタンを押す

Lvボタン

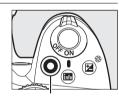
- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、液晶モニターに被写体が表示されます。
- 撮影モードが**A**または**M**の場合は、ライブビューを開始する前に絞り値を設定します（□37）。

2 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる

- 動画撮影を開始する前に、「ライブビュー撮影する」の手順2～3（□38）と同じ手順で被写体にピントを合わせます（ピントの合わせ方については、□39～41をご覧ください）。

3 動画撮影ボタンを押して、撮影を始める

動画撮影ボタン

- AUTOと⊕以外の撮影モードでは、AE-L AF-L（O-π）ボタンを押し続けている間、露出を固定（AEロック）できます。
- 撮影モード**P**、**S**、**A**の場合、☑（⊛）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、1/3段刻みで±3段の範囲で露出補正ができます。
- 録画中は録画中マークが液晶モニターに表示されます。SDカードに記録できる残り時間の目安も液晶モニターで確認できます。

録画中マーク

残り時間

4 もう一度動画撮影ボタンを押して、撮影を終了する

動画撮影中の静止画撮影について

動画撮影中にシャッターがきれるまでシャッターボタンを全押しし続けると、動画撮影を終了して静止画撮影し、ライブビュー表示に戻ります。

別売ステレオマイクロホンについて

別売ステレオマイクロホンME-1を外部マイク入力端子に接続すると、ステレオ録音ができます。また、動画撮影中にオートフォーカスでピント合わせをしたときに生じるレンズの振動ノイズが録音されるのを低減できます（□63）。

動画撮影について

- 使用しているSDカードの書き込み速度によっては、最長記録時間に満たないで撮影が自動的に終了する場合があります（□64）。
- 動画撮影時は、［**AFエリアモード**］が［**顔認識AF**］の場合に認識できる人数が少なくなります。
- 動画撮影時は、内蔵フラッシュと別売のスピードライトは発光しません。
- （動画記録禁止）マーク（□42）が表示されているときは、動画撮影できません。
- 1つの動画ファイルで記録可能な最大ファイルサイズは4GBです。
- 動画撮影時の測光モードは［］（**マルチパターン測光**）に固定され、カメラがシャッタースピードやISO感度を決めます（［**動画のマニュアル設定**］が［**する**］のときに撮影モードを**M**にすると、自分で設定したシャッタースピードとISO感度で動画撮影できます（□50））。
- 被写体の明るさによっては、露出補正の効果が反映されないことがあります。

ライブビュー残り時間のカウントダウンについて

- 自動的に動画撮影を終了する30秒前から、液晶モニターの左上にカウントダウンを表示します（□42）。
- 撮影条件によっては、動画撮影を開始後すぐにカウントダウンが始まることがあります。
- 動画記録中にカウントダウンが始まった場合は、液晶モニターの右上に表示されている動画残り記録時間にかかわらず、ライブビュー残り時間のカウントダウン時間で動画撮影を自動的に終了します。

動画撮影時のご注意

- 動画撮影中の液晶モニターの表示に、次のような現象が発生する場合があります。これらの現象は撮影した動画にも記録されます。
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が発生する
  - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪む
  - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪む
  - カメラを動かした場合、照明などの明るい部分に残像が発生する
  - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
  - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光された場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- 次のような場合は、動画撮影は自動的に終了します。
  - 最長記録時間に達した場合
  - SDカードの残量がなくなった場合
  - レンズを取り外した場合
  - モードダイヤルを回した場合
- 長時間ライブビューで撮影すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ノイズ（ざらつき、むら、輝点）が発生する場合があります。撮影時以外は、ライブビューを終了してください。
- 次のような場合は、高温によるカメラへの損傷を抑えるために、カメラは自動的に動画撮影を終了することがあります。
  - 撮影時の気温が高い場合
  - ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行った場合
  - 連写（連続撮影）を行った直後など

  カメラが熱くなってライブビューまたは動画撮影を開始できない場合は、カメラ内部の温度が下がるまでライブビューおよび動画撮影を一時休止してください。このとき、カメラボディー表面が熱くなることがありますが故障ではありません。
- 動画撮影時、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- カメラボディー前面にあるマイク（🕮1）を指などでふさがないようにしてください。音声が記録できない場合があります。
- 次の場合は、レンズの動作音が録音されることがあります。
  - オートフォーカス作動中
  - VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）をONにした場合

関連ページ

- 動画撮影時の情報表示 → 「ライブビュー撮影中の情報表示」（🕮42）
- 動画撮影時のフォーカスモードを設定する → 「ライブビュー撮影時のフォーカスモードを選ぶ」（🕮39）
- 動画撮影時の AF エリアモードを設定する → 「ライブビュー撮影時の AF エリアモードを選ぶ」（🕮40）
- 動画撮影時のオートフォーカスについてのご注意 → 「ライブビュー撮影時のオートフォーカスについてのご注意」（🕮45）
- ライブビュー表示中や動画撮影時のフリッカー現象を低減する → 🔧［**フリッカー低減**］（🕮53）

動画の設定

撮影メニューの［**動画の設定**］では、動画を記録するときの画像サイズ/フレームレート、画質、音声、動画のマニュアル設定を設定できます。

■画像サイズ/フレームレート、動画の画質

［**画像サイズ/フレームレート**］では、動画を記録するときの画像サイズ（ピクセル）/フレームレートを設定します。［**動画の画質**］では、動画の画質を高画質と標準から選べます。

	画像サイズ/フレームレート		動画の画質	最長記録時間
	解像度（ピクセル）	フレームレート※1,2	最大ビットレート（★高画質※3/標準）	
1080p30	**1920×1080**	**30p**	24Mbps/12Mbps	20分
1080p25	**1920×1080**	**25p**		
1080p24	**1920×1080**	**24p**		
720p60	**1280× 720**	**60p**		
720p50	**1280× 720**	**50p**		
424p30	**640× 424**	**30p**	5Mbps/3Mbps	
424p25	**640× 424**	**25p**		

※1 60p：59.94コマ/秒、50p：50コマ/秒、30p：29.97コマ/秒、25p：25コマ/秒、24p：23.976コマ/秒

※2 30p/60pは、［**ビデオ出力**］が［**NTSC**］の場合に選べます。25p/50pは、［**ビデオ出力**］が［**PAL**］の場合に選べます。

※3［**動画の画質**］が高画質の場合は、アイコンに★が表示されます。

■録音設定

内蔵マイクまたは別売のステレオマイクロホンME-1（□63）の感度の程度を設定します。

マイク感度 オート（A）	カメラが自動的にマイク感度を調整します。
マイク感度 マニュアル	マイク感度を手動調整します。［1］～［20］の調整ができます。数字が大きいほど感度が高く、小さいほど低くなります。
録音しない	音声は記録しません。

音声が記録されていない動画の表示について

撮影メニュー［**動画の設定**］の［**録音設定**］を［**録音しない**］にして撮影した動画の場合、1コマ表示モード時と再生中に（音声なしマーク）が表示されます。

動画のマニュアル設定（撮影モードMのみ）

撮影モードをMに設定して［**する**］を選ぶと、動画撮影時のシャッタースピードとISO感度を変更できます。

- シャッタースピードおよびISO感度は、動画のフレームレート（□49）によって次の範囲に制限されます。ライブビュー開始前の数値が次の範囲でない場合、ライブビュー開始後に自動的に次の範囲内に設定が変更されます。変更後の数値は、ライブビュー終了しても保持されます。

フレームレート	シャッタースピード	ISO感度
24p、25p、30p	1/4000～1/30秒	200～6400、Hi1
50p	1/4000～1/50秒	
60p	1/4000～1/60秒	

- 撮影メニューの［**ISO 感度設定**］で［**感度自動制御**］を［**する**］に設定しても、自動制御は動作しません。

動画の設定を変更する

1 ［動画の設定］を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**動画の設定**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

2 動画の設定項目を選ぶ

- ［**画像サイズ/フレームレート**］、［**動画の画質**］、［**録音設定**］、［**動画のマニュアル設定**］のうちいずれかを選んで▶を押すと、設定画面が表示されます。

3 設定したい項目を選ぶ

- ⊛ボタンを押して設定します。

動画を再生する

1コマ表示モード（📖17）で🎥マークが表示されている画像が動画です。Ⓞボタンを押して動画を再生します。

■動画再生時の操作方法

一時停止する		マルチセレクターの▼を押すと、一時停止します。
再生を再開する		一時停止中または早送り/巻き戻し中にⓄボタンを押すと、動画再生を再開します。
巻き戻しする/早送りする		• 再生中に◀を押すと巻き戻し、▶を押すと早送りします。同じ方向のボタンを押すごとに、巻き戻し/早送りの速度が2倍、4倍、8倍、16倍に切り替わります。 • ◀を押し続けると、最初のコマに移動し、▶を押し続けると、最後のコマに移動します。 • 先頭フレームには⏮アイコンが、最終フレームには⏭アイコンが、画面右上に表示されます。
コマ戻しする/コマ送りする		• 一時停止中に◀または▶を押すと、コマ戻し/コマ送りします。 • ◀または▶を押し続けると連続でコマ戻し/コマ送りします。
10秒進める/10秒戻す		コマンドダイヤルを回すと、10秒前または後ろに移動します。
音量を調節する	⊕ / ⊖（?）	⊕ボタンを押すと音量が大きくなり、⊖（?）ボタンを押すと小さくなります。
動画を編集する	AE-L AF-L（О-п）	一時停止中にAE-L AF-L（О-п）ボタンを押すと、［動画編集］画面を表示します。
再生を終了する	/ ▶	▲または▶ボタンを押すと、1コマ表示モードに戻ります。
撮影に戻る		シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。

メニューを使う

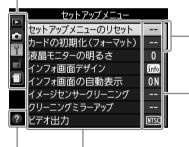
再生や撮影、カメラの基本的な設定をするときは、主にメニュー画面を使います。

MENUボタンを押すと、液晶モニターに次のようなメニュー画面（例：セットアップメニュー）を表示します。

MENUボタン

メニュー切り換えタブ

次の各メニューのアイコンのタブを選ぶと、選んだメニュー画面が表示されます。

▶	再生メニュー		画像編集メニュー
	撮影メニュー		最近設定した項目
	セットアップメニュー		

項目がそのメニュー全体のどの位置にあるかを示しています

各項目の現在の設定をアイコンで表示します

メニュー項目

タブで選んだメニュー内にある設定項目を一覧表示します

?

ヘルプがある場合に表示します。

このアイコンを表示しているときに（?）ボタンを押すと、その項目のヘルプ（説明）を表示します。

- 説明が2ページ以上ある場合は、（?）ボタンを押しながらマルチセレクターの▼を押して、次のページを表示してください。
- （?）ボタンを放すと、メニュー画面に戻ります。

（?）ボタン

? セットアップメニューのリセット

セットアップメニューの設定内容を購入時の初期設定に戻します。

ガイドモード

ガイドモードのメニューを表示するときは、モードダイヤルをGUIDEに合わせてください（□19）。

メニュー項目の一覧

▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能

削除	撮影直後の画像確認	プリント指定（DPOF）
再生フォルダー設定	縦位置自動回転	
再生画面設定	スライドショー	

撮影メニュー：撮影で使える便利な機能

撮影メニューのリセット	ISO感度設定	AFエリアモード
ピクチャーコントロール	アクティブD-ライティング	内蔵AF補助光の照射設定
画質モード	自動ゆがみ補正	測光モード
画像サイズ	色空間	動画の設定
ホワイトバランス	ノイズ低減	内蔵フラッシュ発光

セットアップメニュー：カメラを使いやすくする基本設定

セットアップメニューのリセット	フリッカー低減 地域と日時	フォーカスエイドインジケーター
カードの初期化（フォーマット）	言語（Language）	連番モード
液晶モニターの明るさ	画像コメント	ボタン動作のオプション
インフォ画面デザイン	縦横位置情報の記録	カードなし時レリーズ
インフォ画面の自動表示	イメージダストオフデータ取得	デート写し込み設定
イメージセンサークリーニング	パワーオフ時間	記録フォルダー設定
クリーニングミラーアップ	セルフタイマー	GPS
ビデオ出力	リモコン待機時間	Eye-Fi送信機能※
HDMI	電子音設定	ファームウェアバージョン

※ この機能に対応したEye-Fiカードを挿入したときのみ表示されます。

画像編集メニュー：撮影した画像に行う編集機能

D-ライティング	RAW現像	カラースケッチ
赤目補正	リサイズ	アオリ効果
トリミング	簡単レタッチ	ミニチュア効果
モノトーン	傾き補正	セレクトカラー
フィルター効果	ゆがみ補正	動画編集
カラーカスタマイズ	魚眼効果	
画像合成	塗り絵	

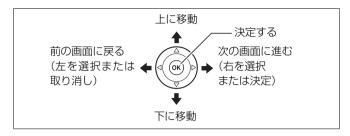
最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる

最後に設定したメニュー項目から順番に最新の20項目が自動的に表示されます。

メニューについて

各メニュー項目の機能については、カメラのヘルプ（□52）をお使いください。

メニュー項目の設定

メニューの操作には、マルチセレクターとⓚボタンを使います。

■ メニュー項目の設定方法

1 メニュー画面を表示する

- MENUボタンを押します。

2 メニューのタブを選ぶ

- ◀を押して、タブのアイコンを黄色く表示します。

3 メニューを切り換える

- ▲または▼を押して、メニューのタブを切り換えます。

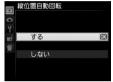
4 選んだメニューに入る

- ▶を押して、選んだメニューに入ります。

5 メニュー項目を選ぶ

- ▲または▼で項目を選びます。

6 設定内容を表示する

- ▶を押して設定内容を表示します。

7 設定内容を選ぶ

- ▲または▼で設定内容を選びます。

8 決定する

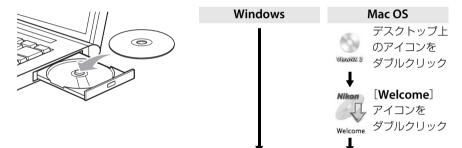
- Ⓞボタンを押して決定します。
- メニュー操作をキャンセル（中止）するには、MENUボタンを押してください。

- 撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。
- Ⓞボタンの代わりに▶を押しても決定できますが、画像の削除やSDカードの初期化などの重要な設定項目については、Ⓞボタンしか使えないことがあります。
- メニュー画面から撮影に戻るには、シャッターボタンを半押し（□14）してください。

ViewNX 2

ViewNX 2 をインストールする

付属のソフトウェアをインストールして、画像をパソコンに取り込めば、静止画や動画の表示、編集ができます。インストールを始める前に、お使いのパソコンの環境が🕮57の動作環境に合っているか確認してください。

1 **パソコンを起動し、ViewNX 2 CD-ROM をCD-ROM ドライブに入れる**

2 **言語を選択する**

3 **インストールを開始する**

画面の指示に従ってインストールしてください。

> **インストールガイドについて**
>
> 手順3 の画面で［**インストールガイド**］をクリックすると、ViewNX 2 のインストール方法のヘルプを表示します。

4 インストールを終了する

Windows	Mac OS
［**はい**］をクリック	［**OK**］をクリック

次のソフトウェアがインストールされます。
- ViewNX 2
- Apple QuickTime（Windows のみ）

5 CD-ROM をCD-ROM ドライブから取り出す

ViewNX 2の動作環境について

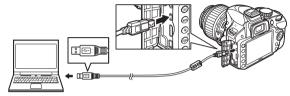
	Windows	Mac OS
プロセッサー（CPU）	• 静止画、動画（MotionJPEG圧縮方式）：Intel Celeron/Pentium4/Coreシリーズ 1.6GHz以上 • 動画（H.264圧縮方式）： - 再生時：Pentium D 3.0GHz 以上 - 編集時：Core 2 Duo 2.6GHz 以上 • 1280×720ピクセル以上でフレームレート30fps以上、または1920×1080ピクセル以上で動画再生をする場合：Intel Core i5以上を推奨	• 静止画、動画（MotionJPEG圧縮方式）：PowerPC G4 1GHz以上/G5、Intel Coreシリーズ/Xeonシリーズ • 動画（H.264圧縮方式）： - 再生時：PowerPC G5 Dual 2GHz またはCore Duo 2GHz 以上 - 編集時：Core 2 Duo 2.6GHz 以上 • 1280×720ピクセル以上でフレームレート30fps以上、または1920×1080ピクセル以上で動画再生をする場合：Intel Core i5以上を推奨 • QuickTime H.264 hardware accelerationに対応したグラフィックプロセッサを推奨
OS	Windows 7 Home Premium/Professional/Enterprise/Ultimate（Service Pack 1）、Windows Vista Home Basic/Home Premium/Business/Enterprise/Ultimate（Service Pack 2）、Windows XP Home Edition/Professional（Service Pack 3） • すべてプリインストールされているモデルに対応 • 64bit版Windows 7およびWindows Vista上で使用する場合、32bitアプリケーションとして動作する場合があります。 • Windows XPは32bit 版のみ対応します。	Mac OS X （Version 10.5.8、10.6.8、10.7.2）
メモリー（RAM）	• Windows 7、Windows Vista：1GB以上実装（2GB以上実装を推奨） • Windows XP：512MB以上実装（2GB以上実装を推奨）	512MB以上実装（2GB以上実装を推奨）
ハードディスク	OS起動ディスクの空き容量が500MB以上（1GB以上推奨）	
モニター	解像度：1024×768ピクセル（XGA）以上（1280×1024 ピクセル（SXGA）以上推奨） 表示色数：24bitカラー以上	解像度：1024×768ピクセル（XGA）以上（1280×1024 ピクセル（SXGA）以上推奨） 表示色数：1670万色以上

ViewNX 2 を使う

パソコンに画像を取り込む

1 画像の入ったSD カードを用意する

SD カード内の画像は、次の方法でパソコンに取り込めます。

- SD カードを入れたカメラの電源をOFF にしてから、付属のUSB ケーブルUC-E17 でカメラとパソコンを接続し、カメラの電源をON にする。

- パソコンに装備されているカードスロットに直接SD カードを差し込む。
- 市販のカードリーダーをパソコンに接続して、SD カードをセットする。

2 Nikon Transfer 2を起動する

起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたときは、Nikon Transfer 2 を選びます。

3 画像をパソコンに取り込む

［**転送開始**］をクリックすると、記録されている全ての画像がパソコンに取り込まれます（ViewNX 2の初期設定）。

［**転送開始**］

Windows 7をお使いの場合

右の画面が表示されたときは、次の手順でNikon Transfer 2を選びます。

1［**画像とビデオのインポート**］で使用するプログラムにNikon Transfer 2を選ぶ

- ［**画像とビデオのインポート**］の［**プログラムの変更**］をクリックすると表示される画面で、［**画像ファイルを取り込む-Nikon Transfer 2使用**］を選んで、［**OK**］をクリックします。

2［**画像ファイルを取り込む**］をダブルクリックする

4 接続を解除する

- カメラを接続している場合は、カメラの電源をOFF にして、USB ケーブルを抜きます。
- カードリーダーやカードスロットをお使いの場合は、パソコン上でリムーバブルディスクの取り外しを行ってから、カードリーダーまたはSD カードを取り外してください。

画像を見る

画像の取り込みが終わると、ViewNX 2 が自動的に起動し、取り込んだ画像が表示されます。

■静止画を編集する

ViewNX 2 のツールバーで［**エディット**］をクリックします。

階調の補正、シャープネスの調整、画像の切り抜き（クロップ）などの編集ができます。

■動画を編集する

ViewNX 2 のツールバーで［**Movie Editor**］をクリックします。

このカメラで撮影した動画の不要な部分を削除するなどの編集ができます。

■画像をプリントする

ViewNX 2 のツールバーで［**印刷**］をクリックします。

ダイアログが表示され、パソコンにつないだプリンターから、画像をプリントできます。

✎ ViewNX 2 を手動で起動するには

- Windows：デスクトップの［**ViewNX 2**］のショートカットアイコンをダブルクリックする
- Mac OS：Dock の［**ViewNX 2**］アイコンをクリックする

✎ ViewNX 2 の詳しい使い方は

ViewNX 2 のヘルプを参照してください。

資 料

このカメラで使えるアクセサリーやカメラの主な仕様など、カメラを使うときに役立つ情報を記載しています。また、カメラの動作がおかしいときや警告メッセージが表示されたときの対処方法についても説明しています。

使用できるレンズ

このカメラでオートフォーカスでピントを合わせるには、AF-SレンズまたはAF-Iレンズが必要です。AF-SまたはAF-I は、レンズ名の次の部分に明示されています。

AF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR

レンズ名のこの部分がAF-SまたはAF-Iであることをご確認ください。

このカメラで使用できるCPUレンズとレンズの仕様によるファインダー撮影時の制限は次の通りです。

モード / レンズ	フォーカスモード			撮影モード		測光モード		
	AF（オートフォーカス）	フォーカスエイド	MF（マニュアルフォーカス）	M	M以外	マルチパターン測光		中央部重点測光/スポット測光
						3D-RGB	RGB	
AF-Iレンズ、AF-Sレンズ※1	○	○	○	○	○	○	×	○※2
Gタイプレンズ、DタイプのAFレンズ※1	×	○	○	○	○	○	×	○※2
PC-E NIKKORシリーズ	×	○※3	○	○※3	○※3	○※3	×	○※2, 3
PCマイクロ 85mm F2.8D※4	×	○※3	○	○	×	○	×	○※2, 3
AF-S/AF-Iテレコンバーター※5	○※6	○※6	○	○	○	○	×	○※2
Gタイプ・Dタイプ以外のAFレンズ（F3AF用を除く）	×	○※7	○	○	○	×	○	○※2
AI-Pニッコール	×	○※8	○	○	○	×	○	○※2

※1 カメラの機能を最大限に引き出すためには、AF-SまたはAF-Iレンズをお使いになることをおすすめします。このカメラはVRレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応しています。
※2 フォーカスポイントの選択によりスポット測光エリアの移動が可能。
※3 アオリ操作をしていない場合のみ可能。
※4 カメラの測光モード、および調光制御機能は、アオリ操作（シフトまたはティルト）をしているとき、または開放絞り以外に絞り値が設定されているときには、正しく機能しません。
※5 AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用。
※6 合成絞り値がF5.6以上明るい場合に使用可能。
※7 AF80–200mm f/2.8S、AF35–70mm f/2.8S、AF28–85mm f/3.5–4.5S（New）、AF28–85mm f/3.5–4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。
※8 開放F値がF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。

使用できるレンズについてのご注意

AF-SやAF-I以外のオートフォーカス（AF）レンズを装着しても、このカメラではオートフォーカス撮影できません。また、IXニッコールレンズは装着できません。

レンズの開放F値とは

レンズの明るさを示す数値で、そのレンズで最も絞りを開いたときの絞り値を意味します。レンズ名称の最後のほうに「f/2.8」「f/3.5–5.6」などと記されています。

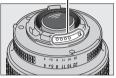
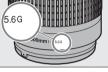
CPUレンズ、Gタイプレンズ、Dタイプレンズの見分け方

CPUレンズにはCPU信号接点があります。Gタイプレンズには「G」マークが、Dタイプレンズには「D」マークが付いています。Gタイプレンズには、絞りリングがありません。

CPU信号接点

CPUレンズ

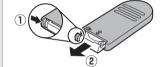
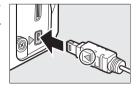
Gタイプレンズ

絞りリング

Dタイプレンズ

使用できるアクセサリー

このカメラには撮影領域を拡げるさまざまなアクセサリーが用意されています。詳しくは最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください。

電源	• **Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14**（□6） ニコンデジタルカメラD3200用のバッテリーです。 • **バッテリーチャージャー MH-24**※1（□6） Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14用のチャージャーです。 • **パワーコネクター EP-5A、ACアダプター EH-5b**※2 ACアダプターを使用すると、長時間カメラを使用するときに安定して電源を供給できます。 - このカメラは、カメラ本体とACアダプターを接続するためにパワーコネクター EP-5Aが必要です。 - EH-5bの代わりにACアダプター EH-5/EH-5aも使えます。 ※1 家庭用電源のAC 100～240 V、50/60 Hz に対応しています。日本国外では、必要に応じて市販の変換プラグアダプターを装着してお使いください。変換プラグアダプターは、あらかじめ旅行代理店などでお確かめの上、お買い求めください。 ※2 日本国内専用電源コード（AC 100V対応）付属。日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。
フィルター	• フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、NCフィルターをお使いください。 • カメラ測光系の特性上、従来の偏光フィルター（Polar）は使用できません。円偏光フィルター（C-PL、C-PL Ⅱ）をお使いください。 • 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生するおそれがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。 • 露出倍数のかかるフィルター（Y44、Y48、Y52、O56、R60、X0、X1、C-PL（円偏光フィルター）、ND2S、ND4S、ND4、ND8S、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12）を使用する場合、［**測光モード**］を［◉］（**中央部重点測光**）にして撮影することをおすすめします。［◙］（**マルチパターン測光**）では、充分な効果が得られない場合があります。詳しくは、フィルターの使用説明書をご覧ください。 • 特殊フィルターなどを使用する場合は、オートフォーカスやフォーカスエイドが行えないことがありますのでご注意ください。
ニコンデジタルカメラ専用ソフトウェア	• **Capture NX 2**※ 画像を詳細に編集できる、画像編集用ソフトウェアです。ホワイトバランス調整やカラーコントロールポイントなどさまざまな機能を備えています。 ※ 必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。お使いのパソコンがインターネットに接続されていれば、ソフトウェアの起動時にニコンメッセージセンター 2（Nikon Message Center 2）が自動的に更新情報をチェックします。 • 対応OSについては、当社ホームページのサポート情報（□viii）でご確認ください。
ボディーキャップ	• **ボディーキャップBF-1B、BF-1A** レンズを取り外したカメラボディーに取り付けることにより、ミラーやファインダースクリーンなどへのゴミやほこりの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。

ファインダー用 アクセサリー	• **接眼補助レンズDK-20C** 遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えることができます。−5、−4、−3、−2、0、+0.5、+1、+2、+3m⁻¹の9種類が用意されていますが、いずれもこのカメラの視度調節ダイヤルが基準位置（−1m⁻¹）の場合の値です。視度補正は個人差が大きいので店頭で実際に取り付けてお選びください。このカメラには視度調節機能が付いています（−1.7〜+0.5m⁻¹）ので、この範囲外の視度補正が必要なときにお使いください。なお、接眼補助レンズを使用している場合は、接眼目当ては使用できません。 • **マグニファイヤー DG-2** ファインダー中央部の像を拡大します。より厳密なピント合わせが必要なときに使用します。 • **アイピースアダプター DK-22** 上記DG-2を取り付けるためのアダプターです。 • **角窓用変倍アングルファインダー DR-6** カメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。
リモコン	• **リモコンML-L3**（□25） **リモコン用電池（CR2025型3Vリチウム電池）の交換方法** 電池室のノブを右側に押しながら（①）、隙間に爪などを差し込んで手前に引き出して（②）ください。リチウム電池を入れる際は、「+」と「−」の向きをよくご確認ください（④）。
外部マイク	• **ステレオマイクロホンME-1**（□49）
アクセサリー ターミナル	アクセサリーターミナルに次のアクセサリーを接続することができます。 • **リモートコードMC-DC2** • **GPSユニットGP-1** 図のようにアクセサリーターミナルの▷マークとコネクターの◁マークを合わせて、コネクターをアクセサリーターミナルに接続します。 使用しないときは、必ず端子カバーを閉じてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。
USB/オーディオ ビデオ出力端子	• **USBケーブル UC-E17、UC-E6**（□58） • **ワイヤレスモバイルアダプター WU-1a** Wireless Mobile Adapter Utilityをインストールしたスマートデバイスと双方向無線通信ができます。

推奨SDカード

次のSDカードの動作を確認しています。

	SDメモリーカード	SDHCメモリーカード※2	SDXCメモリーカード※3
SanDisk製	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	64 GB
東芝製	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	64 GB
Panasonic製	2 GB※1	4 GB、6 GB、8 GB、12 GB、16 GB、24 GB、32 GB	48 GB、64 GB
LEXAR MEDIA社製	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	—
プラチナⅡシリーズ	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	—
プロフェッショナルシリーズ	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB、64 GB、128 GB	—
フルHDビデオカードシリーズ	—	4 GB、8 GB、16 GB	—

※1 カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器が2 GBのSDカードに対応している必要があります。

※2 SDHC 規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDHC規格に対応している必要があります。このカメラは、UHS-I規格に対応しています。

※3 SDXC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDXC規格に対応している必要があります。このカメラは、UHS-I規格に対応しています。

- 動画の撮影には、SDスピードクラスがClass 6以上のカードをおすすめします。転送速度が遅いカードでは、動画の撮影が途中で終了することがあります。
- 上記SDカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、SDカードメーカーにご相談ください。その他のメーカー製のSDカードにつきましては、動作の保証はいたしかねます。

カメラのお手入れについて

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前には、カメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

カメラを保管するときは、次の場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度が60%を超える場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または－10℃以下の場所

クリーニングについて

カメラ本体	ほこりや糸くずをブロアーで払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使用した後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。 **ご注意：カメラ内部にゴミ、ほこりや砂などが入り込むと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。**
レンズ・ミラー・ファインダー	ガラスは傷つきやすいので、ほこりや糸くずをブロアーで払います。スプレー缶タイプのブロアーは、缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つけることがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。
液晶モニター	ほこりや糸くずをブロアーで払います。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

定期点検、オーバーホールのおすすめ

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールすることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意

カメラの取り扱い上のご注意

● 強いショックを与えない

カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

● 水にぬらさない

カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えない

極端に温度差のある場所に急にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

● 強い電波や磁気の発生する場所で撮影しない

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しない

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色・焼き付きを起こすおそれがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

● カメラ本体のお手入れについて

カメラ本体のお手入れの際は、ブロアーでゴミやほこりを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。

● ミラーやレンズの手入れ方法について

ミラーやレンズは傷が付きやすいので、ゴミやほこりが付いているときは、ブロアーで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶タイプのブロアーの場合、スプレー缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

● ローパスフィルターの手入れ方法について

撮像素子の前面にあるローパスフィルターのクリーニングの方法については活用ガイドをご覧ください。

● シャッター幕に触れない

シャッター幕は非常に薄いため、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や変形、破損などの原因となります。

● 風通しのよい場所に保管する

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。ナフタリンや樟脳の入ったタンスの中、磁気を発生する器具のそば、高温となる夏季の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

● 長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管する

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液もれなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源をOFFにする

カメラの電源がONの状態で、バッテリーを取り出したり、ACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 液晶モニターについて

- モニター画面は、非常に精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効ドットがありますが、0.01%以下でドット抜けするものがあります。そのため、常時点灯（白、赤、青、緑）あるいは非点灯（黒）の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。あらかじめご了承ください。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくい場合があります。

- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因になります。もしゴミやほこり等が付着した場合は、ブロアーで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

● モアレについて

モアレは、被写体の模様と撮像素子の配列とが干渉して起きる現象で、連続するパターンのある画像（建物の格子や格子模様、格子状に並んだビルの窓など）や、規則的に繰り返す細かい模様を持つ被写体（カーテンレースの網目や衣類など）を撮影したときに発生することがあります。

モアレが発生しやすい被写体を撮影するときは、撮影距離を変える、ズームレンズをご使用の場合はズーミングして焦点距離を変える、被写体に対する角度を変えて撮影する、などの方法をおすすめします。

バッテリーの取り扱いについて

● 使用上のご注意

- バッテリーの使用方法を誤ると液もれにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。
  - バッテリーはカメラの電源をOFFにしてから入れる。
  - バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるので注意する。
  - バッテリーの端子は、汚さないように注意する。
  - 必ず指定のバッテリーを使う。
  - バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしない。
  - カメラやチャージャーから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付ける。
- カメラの使用直後など、バッテリーの温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、または不完全な充電になるばかりでなく、バッテリーの性能が劣化する原因になります。
- しばらく使わない場合は、カメラでバッテリーを使い切った状態で涼しいところで保管してください。周囲の温度が15 ～ 25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。暑いところや極端に寒いところは避けてください。
- 使用後のバッテリーは半年以内に充電するようおすすめします。長期間保管する場合は、半年に一回程度充電した後、カメラでバッテリーを使い切ってから涼しいところで保管してください。
- 使用しないときは必ずバッテリーをカメラやチャージャーから取り外してください。付けたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので、過放電になり使えなくなるおそれがあります。

● 撮影前にバッテリーをあらかじめ充電する

撮影前にバッテリーを充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されていません。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

● 低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意する

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しないことがあります。低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使えることがあります。

● バッテリーの残量について

- 電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源のON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響を及ぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してお使いください。
- 充分に充電したにもかかわらず、室温での使用状態でバッテリーの使用時間が極端に短くなってきた場合は、バッテリーの寿命です。新しいリチャージャブルバッテリーEN-EL14をお求めください。

● 充電が完了したバッテリーを続けて再充電しない

バッテリー性能が劣化します。

● 小型充電式電池のリサイクル

不要になった充電式電池は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

数字の有無と数値は、電池によって異なります。

警告メッセージ

液晶モニターとファインダーに表示される警告メッセージの意味は次の通りです。

警告表示について

液晶モニターに❓、またはファインダー内に?が点滅している場合に?（?）ボタンを押すと、警告の内容を確認することができます。

こんなとき		対処方法
液晶モニター	ファインダー内表示	
レンズの絞りリングを最小絞り（一番大きい数字）にしてください。	FEE（点滅）	レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい値）にしてください。
レンズ未装着	F--/?（点滅）	• レンズを装着してください。 • 非CPUレンズを装着しているときは、撮影モード**M**で撮影してください。
撮影できません。バッテリーを交換してください。	🔋/?（点滅）	残量のあるバッテリーに交換してください。
このバッテリーは使用できません。専用バッテリーに交換してください。	🔋（点滅）	専用バッテリーに交換してください。
起動エラーが発生しました。復旧には電源スイッチをOFFにして再度ONにしてください。	🔋/Err（点滅）	電源を一度OFFにしてから、バッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてください。
バッテリーが残り少なくなりました。ただちに作業を終了し、電源スイッチをOFFにしてください。	—	クリーニングを中止し、電源をOFFにしてください。
日時未設定	—	日時を設定してください。
メモリーカード未挿入	(-E-)/?（点滅）	SDカードを正しく入れてください。
メモリーカードが書き込み禁止になっています。	Cd（点滅）	SDカードのロックを解除してください。
このメモリーカードは壊れている可能性があるため、使用できません。カードを交換してください。	Cd/(Err)（点滅）	• このカメラで使用できるSDカードであるかどうかを確認してください。 • SDカードを初期化し直してください。状況が改善しない場合は、SDカードが壊れている可能性があります。ニコンサービス機関にご相談ください。 • 新規フォルダー作成時にこのメッセージが表示された場合は、不要な画像を削除してください。 • 新しいSDカードに交換してください。 • セットアップメニューの［**Eye-Fi送信機能**］を［**無効**］にしても、電波が出力される場合があります。カメラの電源をOFFにしてからEye-Fiカードを取り出し、SDカードに交換してください。

こんなとき		対処方法
液晶モニター	ファインダー内表示	
Eye-Fiカードは 書き込み禁止の状態 では使用できません。	Cd/Err （点滅）	Eye-Fiカードのロックを解除してください。
このメモリーカードは 初期化（フォーマット） されていません。 フォーマットしてください。	For （点滅）	• SDカードをカメラで初期化してください。 • 電源をOFFにしてから、正しく初期化されたSDカードに交換してください。
メモリーカード 空き容量不足	FuL/0/? （点滅）	• SDカードに記録されている画像を削除して、SDカードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいSDカードに交換してください。
—	● （点滅）	構図を変えるか、マニュアル（手動）でピントを合わせてください。
被写体が明るすぎます	? （点滅）	• ISO感度を低くしてください。 • シャッタースピードをより高速側にセットしてください。 • 絞りを絞り込んで（より大きい数値にして）ください。 • 市販のND（光量調節用）フィルターをお使いください。
被写体が暗すぎます	? （点滅）	• ISO感度を高くしてください。 • フラッシュをお使いください。 • シャッタースピードをより低速側にセットしてください。 • 絞りを開いて（より小さい数値にして）ください。
Sモード時Bulb制御不可	bulb （点滅）	• シャッタースピードを変えてください。 • 撮影モード**M**で撮影してください。
—	⚡ （点滅）	フラッシュがフル発光しました。撮影に必要な光量が不足している可能性があります。撮影距離、絞り、フラッシュ調光範囲、ISO感度などをご確認ください。
—	⚡/? （点滅）	• フラッシュをお使いください。 • 撮影距離、絞り値、調光範囲、ISO 感度などを確認してください。 • 別売スピードライト SB-400 をお使いの場合に、装着したSB-400の位置がバウンス位置になっていると、この警告表示になります。バウンスで撮影するときは、そのまま撮影を続けてください。 • レンズの焦点距離が18mmより広角になっています。焦点距離を18mm以上にしてください。 • 別売スピードライトSB-400をお使いの場合に、レンズの焦点距離が短すぎると、この警告表示になり、画像の周辺が暗くなることを警告します。この場合、レンズの焦点距離を長くしてください。
スピードライトエラー	? （点滅）	接続中のスピードライトはバージョンアップに失敗しているため使用できません。ニコンサービス機関にご相談ください。
何らかの異常を 検出しました。 復旧にはシャッターボタン をもう一度押してください。	Err （点滅）	もう一度シャッターボタンを押してください。警告表示が解除されない場合や、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービス機関にご相談ください。

こんなとき		対処方法
液晶モニター	ファインダー内表示	
起動エラーが発生しました。サービス機関にお問い合わせください。	Err（点滅）	ニコンサービス機関にご相談ください。
測光機能エラー	Err（点滅）	ニコンサービス機関にご相談ください。
ライブビューを開始できません。カメラ内部の温度が下がるまでしばらくお待ちください。	—	カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビュー撮影または動画撮影を一時休止してください。
撮影画像がありません。	—	• 画像が記録されているSDカードを入れてください。 • 再生メニューの［**再生フォルダー設定**］で、表示可能な画像があるフォルダーを選択してください。
このファイルは表示できません。	—	• パソコンで編集した画像など、DCF規格の画像ファイルではないため、再生できません。 • 画像ファイルに異常があるため再生できません。
このファイルは選択できません。	—	このカメラで撮影または編集した画像しか画像編集できません。
処理できる画像がありません。	—	［**RAW現像**］で画像編集できるのはRAW画像だけです。
プリンターの状態を確認してください。※	—	インク交換してください。インクに残量がある場合は、プリンターの状態を確認してください。
用紙を確認してください。※	—	指定したサイズの用紙がセットされていません。指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んでOKボタンを押して、プリントを再開してください。
紙詰まりです。※	—	用紙が詰まりました。詰まった用紙を取り除いた後、［**継続**］を選んでOKボタンを押して、プリントを再開してください。
用紙がありません。※	—	用紙がセットされていません。指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んでOKボタンを押して、プリントを再開してください。
インクを確認してください。※	—	インクに異常があります。インクを確認した後、［**継続**］を選んでOKボタンを押して、プリントを再開してください。
インクがありません。※	—	インクがなくなりました。インクを交換した後、［**継続**］を選んでOKボタンを押して、プリントを再開してください。

※ プリンターの使用説明書も併せてご覧ください。

主な仕様

ニコンデジタルカメラD3200

型式	
型式	レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
レンズマウント	ニコンFマウント（AF接点付）
実撮影画角	レンズの焦点距離の約1.5倍に相当（35mm判換算）、ニコンDXフォーマット
有効画素数	
有効画素数	24.2メガピクセル
撮像素子	
方式	23.2×15.4 mmサイズCMOSセンサー
総画素数	24.7メガピクセル
ダスト低減機能	イメージセンサークリーニング、 イメージダストオフデータ取得（別売Capture NX 2必要）
記録形式	
記録画素数	• 6016×4000ピクセル（サイズL） • 4512×3000ピクセル（サイズM） • 3008×2000ピクセル（サイズS）
画質モード	• RAW 12bit（圧縮） • JPEG-Baseline準拠、圧縮率（約）：FINE（1/4）、NORMAL（1/8）、BASIC（1/16） • RAWとJPEGの同時記録可能
ピクチャーコントロールシステム	スタンダード、ニュートラル、ビビッド、モノクローム、ポートレート、風景、いずれも調整可能
記録媒体	SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカード（SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードはUHS-I規格に対応）
対応規格	DCF 2.0（Design rule for Camera File system）、 DPOF（Digital Print Order Format）、 Exif 2.3（Exchangeable image file format for digital still cameras）、 PictBridge
ファインダー	
ファインダー	アイレベル式ペンタミラー使用一眼レフレックス式ファインダー
視野率	上下左右とも約95%（対実画面）
倍率	約0.8倍（50mm f/1.4レンズ使用、∞、$-1.0\ m^{-1}$のとき）
アイポイント	接眼レンズ面中央から18 mm（$-1.0\ m^{-1}$のとき）
視度調節範囲	-1.7～$+0.5m^{-1}$
ファインダースクリーン	B型クリアマットスクリーンVII
ミラー	クイックリターン式
レンズ絞り	瞬間復元式、電子制御式

レンズ	
交換レンズ	• **オートフォーカス可能レンズ**：AF-SおよびAF-Iレンズ • **オートフォーカス不可レンズ**：AF-SおよびAF-I以外のGまたはDタイプレンズ、GまたはDタイプ以外のAFレンズ（IX用レンズ、F3AF用レンズは使用不可）、Pタイプレンズ、非CPUレンズ（撮影モード**M**（マニュアル）で使用可能、ただしカメラで測光は不可） ※開放F値がF5.6以上明るいレンズでフォーカスエイド可能

シャッター	
型式	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	1/4000～30秒（1/3ステップ）、Bulb、Time（別売のリモコンML-L3使用）
フラッシュ同調シャッタースピード	X=1/200秒以下の低速シャッタースピードで同調

レリーズ機能	
レリーズモード	S：単写、連写、セルフタイマー、2s：2秒リモコン、瞬時リモコン、Q：静音撮影
連続撮影速度	最高約4コマ/秒（フォーカスモードがマニュアルフォーカス、撮影モードが**S**（シャッター優先オート）または**M**（マニュアル）、1/250秒以上の高速シャッタースピード、その他が初期設定時）
セルフタイマー	作動時間：2、5、10、20秒、撮影コマ数：1～9コマ

露出制御	
測光方式	420分割RGBセンサーによるTTL開放測光方式
測光モード	• **マルチパターン測光**：3D-RGBマルチパターン測光II（GまたはDタイプレンズ使用時）、RGBマルチパターン測光II（その他のCPUレンズ使用時） • **中央部重点測光**：φ8 mm相当を測光（中央部重点度約75%） • **スポット測光**：約φ3.5 mm相当（全画面の約2.5%）を測光、フォーカスポイントに連動して測光位置可動
測光範囲	• **マルチパターン測光、中央部重点測光**：0～20 EV • **スポット測光**：2～20 EV（ISO 100、f/1.4レンズ使用時、常温20℃）
露出計連動	CPU連動方式
撮影モード	AUTO：オート、発光禁止オート、ポートレート、風景、こどもスナップ、スポーツ、クローズアップ、夜景ポートレート、**P**：マルチプログラムオート（プログラムシフト可能）、**S**：シャッター優先オート、**A**：絞り優先オート、**M**：マニュアル
露出補正	範囲：±5段、補正ステップ：1/3ステップ
AEロック	AE-L AF-L（O-n）ボタンによる輝度値ロック方式
ISO感度（推奨露光指数）	ISO 100～6400（1段ステップ）、ISO 6400に対し約1段（ISO 12800相当）の増感、感度自動制御が可能
アクティブD-ライティング	する、しない

オートフォーカス	
方式	TTL位相差検出方式：フォーカスポイント11点（うち、クロスタイプセンサー1点）、マルチCAM 1000オートフォーカスセンサーモジュールで検出、AF補助光（約0.5～3 m）付
検出範囲	–1～＋19 EV（ISO 100、常温（20℃））
レンズサーボ	• **オートフォーカス（AF）**：シングルAFサーボ（AF-S）、コンティニュアスAFサーボ（AF-C）、AFサーボモード自動切り換え（AF-A）を選択可能、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行 • **マニュアルフォーカス（MF）**：フォーカスエイド可能
フォーカスポイント	11点のフォーカスポイント
AFエリアモード	シングルポイントAF、ダイナミックAF、オートエリアAF、3D-トラッキング（11点）
フォーカスロック	AE-L AF-L（O-n）ボタン、またはシングルAFサーボ（AF-S）時にシャッターボタン半押し

フラッシュ	
内蔵フラッシュ	AUTO、[ポートレート]、[こどもスナップ]、[クローズアップ]、[夜景ポートレート]時：オートポップアップ方式による自動発光 P、S、A、M時：押しボタン操作による手動ポップアップ方式 ガイドナンバー：約12（マニュアルフル発光時約13）（ISO 100・m、20℃）
調光方式	**420分割RGBセンサーによるTTL調光制御**：内蔵フラッシュ、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600またはSB-400でi-TTL-BL調光（マルチパターン測光または中央部重点測光）、スタンダードi-TTL調光（スポット測光）可能
フラッシュモード	通常発光オート、赤目軽減オート、通常発光オート＋スローシャッター、赤目軽減オート＋スローシャッター、通常発光、赤目軽減発光、通常発光＋スローシャッター、赤目軽減発光＋スローシャッター、後幕発光＋スローシャッター、後幕発光、発光禁止
調光補正	範囲：–3～+1段、補正ステップ：1/3ステップ
レディーライト	内蔵フラッシュ、別売スピードライト使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅
アクセサリーシュー	ホットシュー（ISO 518）装備：シンクロ接点、通信接点、セーフティーロック機構（ロック穴）付
ニコンクリエイティブライティングシステム	• SB-910、SB-900、SB-800またはSB-700を主灯、SU-800をコマンダーとしたアドバンストワイヤレスライティングに対応 • ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトとの組み合わせで発光色温度情報伝達に対応
シンクロターミナル	ホットシューアダプター AS-15（別売）

ホワイトバランス	
ホワイトバランス	オート、電球、蛍光灯（7種）、晴天、フラッシュ、曇天、晴天日陰、プリセットマニュアル、プリセットマニュアル以外はいずれも微調整可能

ライブビュー撮影機能	
レンズサーボ	• **オートフォーカス（AF）**：シングルAFサーボ（AF-S）、常時AFサーボ（AF-F） • **マニュアルフォーカス（MF）**
AFエリアモード	顔認識AF、ワイドエリアAF、ノーマルエリアAF、ターゲット追尾AF
フォーカス	コントラストAF方式、全画面の任意の位置でAF可能（顔認識AFまたはターゲット追尾AFのときは、カメラが決めた位置でAF可能）
おまかせシーン（シーン自動判別）	撮影モード[AUTO]、[発光禁止]で使用可能

動画機能	
測光方式	撮像素子によるTTL測光方式
測光モード	マルチパターン測光
記録画素数/フレームレート	• 1920×1080：30p/25p/24p • 1280× 720：60p/50p • 640× 424：30p/25p ※ 60p：59.94fps、50p：50fps、30p：29.97fps、25p：25fps、24p：23.976fps ※ 30p/60pは［**ビデオ出力**］が［**NTSC**］の場合に選択可能 ※ 25p/50pは［**ビデオ出力**］が［**PAL**］の場合に選択可能 ※ 標準/高画質選択可能
ファイル形式	MOV
映像圧縮方式	H.264/MPEG-4 AVC
音声記録方式	リニアPCM
録音装置	内蔵モノラルマイク、外部マイク使用可能（ステレオ録音）、マイク感度設定可能
感度	ISO 200～6400、ISO 6400に対し約1段（ISO 12800相当）の増感

液晶モニター	
液晶モニター	3型TFT液晶、約92万ドット（VGA）、視野角160°、視野率約100%、明るさ調整可能

再生機能	
再生機能	1コマ再生、サムネイル再生（4、9、72分割またはカレンダーモード）、拡大再生、動画再生、スライドショー（静止画/動画選択再生可能）、ヒストグラム表示、ハイライト表示、撮影画像の縦位置自動回転、画像コメント入力可能（英数字36文字まで）

インターフェース	
USB	Hi-Speed USB
ビデオ出力	NTSC、PAL
HDMI出力	HDMIミニ端子（Type C）装備
アクセサリーターミナル	• リモートコード：MC-DC2（別売） • GPSユニット：GP-1（別売）
外部マイク入力	ステレオミニジャック（φ3.5mm）

表示言語	
表示言語	日本語、英語
電源	
使用電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14（1個使用）
ACアダプター	ACアダプター EH-5b（パワーコネクター EP-5Aと組み合わせて使用）（別売）
三脚ネジ穴	
三脚ネジ穴	1/4（ISO 1222）
寸法・質量	
寸法（W×H×D）	約125×96×76.5 mm
質量	約505 g (バッテリーおよびSDメモリーカードを含む、ボディーキャップを除く) 約455 g（本体のみ）
動作環境	
温度	0～40℃
湿度	85%以下（結露しないこと）

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、全て常温（20℃）フル充電バッテリー使用時のものです。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 本書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

▮▮ バッテリーチャージャー MH-24

電源	AC 100 ～ 240 V、50/60 Hz、MAX 0.2 A
定格入力容量	18 ～ 24 VA
充電出力	DC 8.4 V、0.9 A
適応電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14
充電時間	EN-EL14充電時：約1時間30分 ※残量のない状態からの充電時間（周囲温度25℃）
使用温度	0～40 ℃
寸法（W×H×D）	約70×26×97 mm
質量	約89 g

▮▮ Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14

形式	リチウムイオン充電池
定格容量	7.4 V、1030 mAh
使用温度	0～40 ℃
寸法（W×H×D）	約38×53×14 mm
質量	約48 g（端子カバーを除く）

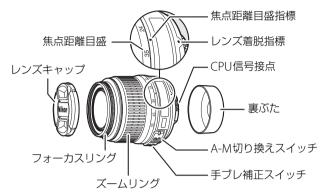
▮▮ レンズAF-S DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VR

型式	ニコンFマウントCPU内蔵Gタイプ、AF-S DXニッコールズームレンズ（ニコンデジタル一眼レフカメラ［ニコンDXフォーマット］専用）
焦点距離	18 mm–55 mm
最大口径比	1：3.5–5.6
レンズ構成	8群11枚（非球面レンズ1枚）
画角	76º– 28º 50′
焦点距離目盛	18、24、35、45、55mm
撮影距離情報	カメラへの撮影距離情報出力可能
ズーミング	ズームリングによる回転式
ピント合わせ	超音波モーターによるオートフォーカス、マニュアルフォーカス可能
手ブレ補正	ボイスコイルモーター（VCM）によるレンズシフト方式
最短撮影距離※	撮像面から0.28 m（ズーム全域）
絞り羽根枚数	7枚（円形絞り）
絞り方式	自動絞り
絞りの範囲	焦点距離18 mm時 f/3.5–22、55 mm時 f/5.6–36
測光方式	開放測光
アタッチメントサイズ	52 mm（P=0.75 mm）
寸法	約73 mm(最大径)×79.5 mm(バヨネットマウント基準面からレンズ先端まで)
質量	約265 g

※ 距離基準マーク（🕮1）は撮像面の位置を示します。

- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 本書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

AF-S DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VRについて

本書では、主にAF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VRのレンズを使用して説明しています。各部名称は次の通りです。

撮影可能コマ数（電池寿命）について

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14（1030mAh）による撮影可能コマ数（電池寿命）は、次の通りです。

- **1コマ撮影モード：約540コマ（CIPA基準準拠※1）**
- **連写モード：約1800コマ（当社試験条件※2）**

※1 初期設定条件で 30 秒間隔ごとに撮影レンズを無限遠から至近に 1 往復フォーカシング動作をさせて1コマ撮影する。ライブビュー撮影なし。1回レリーズ（2回に1回は内蔵フラッシュをフル発光）した後、液晶モニターを4秒間点灯。消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズAF-S DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VR、温度23（± 2）℃。

※2 レリーズモード連続、フォーカスモードAF-C、画質モードBASIC、画像サイズM、ホワイトバランスAUTO、ISO 100、シャッタースピード1/250秒、シャッターボタンの半押しを3秒間持続後、撮影レンズを無限遠から至近間を3往復フォーカシング動作させ6回連続レリーズした後、液晶モニターを4秒間点灯させ、消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズAF-S DX NIKKOR 18–55mm f/3.5–5.6G VR（VR機能OFF）、温度20℃。

※バッテリーの充電状態、使用環境によって電池寿命が異なります。

次の場合はバッテリーの消耗が早くなります。

- ライブビュー撮影などで液晶モニターを使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードをRAWに設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合
- GPSユニットGP-1を使用した場合
- ワイヤレスモバイルアダプター WU-1aを使用した場合
- VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14の性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。

- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、充分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにお使いください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。

商標説明

- PictBridgeロゴは商標です。
- SDロゴ、SDHCロゴ、およびSDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- Microsoft、WindowsおよびWindows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Macintosh、Mac OS、QuickTimeは米国およびその他の国で登録されたApple Inc.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

HDMI

- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

アフターサービスについて

■この製品の使い方や修理に関するお問い合わせは

- 使い方に関するご質問は、裏面に記載の「ニコン　カスタマーサポートセンター」にお問い合わせください。
- 修理に関するご質問は、裏面に記載の「修理センター」にお問い合わせください。

【お願い】

- お問い合わせいただく場合には、おわかりになる範囲で結構ですので、次の内容をご確認の上、お問い合わせください。
  「製品名」、「製品番号」、「ご購入日」、「問題が発生したときの症状」、「表示されたメッセージ」、「症状の発生頻度」など。
- ソフトウェアのトラブルの場合には、おわかりになる範囲で結構ですので、次の内容をご確認の上、お問い合わせください。
  「ソフトウェア名およびバージョン」、「パソコンの機種名」、「OSのバージョン」、「メモリー容量」、「ハードディスクの空き容量」、「問題が発生したときの症状」、「症状の発生頻度」、エラーメッセージが表示されている場合はエラーメッセージの内容など。
- ファクシミリや郵送でお問い合わせの場合は「ご住所」、「お名前」、「フリガナ」、「電話番号」、「FAX番号」を（会社の場合は会社名と部署名も）明確にお書きください。

■修理を依頼される場合は

- ニコンサービス機関（裏面に記載の「修理センター」など）、ご購入店、または最寄りの販売店にご依頼ください。
- ニコンサービス機関につきましては、詳しくは「ニコン サービス機関のご案内」をご覧ください。

【お願い】

- 修理に出されるときは、メモリーカードがカメラ内に挿入されていないかご確認ください。
  ※ 内蔵メモリー内に画像データがあるときは、消去される場合があります。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後7年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ニコンサービス機関またはご購入店へお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

製品の使い方に関するお問い合わせ

＜ニコン カスタマーサポートセンター＞
全国共通のナビダイヤルにお電話ください。

0570-02-8000
一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30 ～ 18:00（年末年始、夏期休業日等を除く毎日）
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03）6702-0577 におかけください。ファクシミリでのご相談は、（03） 5977-7499 にお送りください。

修理サービスのご案内

修理品のお引き取りを依頼される場合は

＜ニコン ピックアップサービス＞
下記のフリーダイヤルでお申し込みいただくと、ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）が、梱包資材のお届け・修理品のお引き取り、修理後のお届け・集金までを一括して提供するサービスです。全国一律の料金にて承ります。
※宅配便で扱える大きさや重さには制限があるため、取り扱いできない製品もございます。

0120-02-8155 営業時間：9:00～18:00（年末年始12/29～1/4を除く毎日）

※上記のフリーダイヤルはピックアップサービス専用です。ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）にて承ります。
製品や修理に関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンター、または修理センターへお願いいたします。

修理品を宅配便などでお送りいただく場合の送り先と修理に関するお問い合わせは

＜（株）ニコンイメージングジャパン　修理センター＞
230-0052　横浜市鶴見区生麦2-2-26

0570-02-8200
一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30～18:00（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業日など弊社定休日を除く毎日）
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03） 6702-0577 におかけください。

●修理センターには、ご来所の方の窓口がございません。宅配便のみお受けします。ご了承ください。

インターネットご利用の方へ

＜ニコンイメージング／サポートページ＞

- http://www.nikon-image.com/support/
  最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデートに関する情報がご覧いただけます。
  ※製品をより有効にご利用いただくために、定期的にアクセスされるようおすすめします。
- http://www.nikon-image.com/support/repair/
  「ニコン　ピックアップサービス」のお申し込みや修理見積もり金額の確認、インターネットを利用して修理を申し込まれた場合の修理状況や納期の確認などがご覧いただけます。

※お問い合わせや修理を依頼をされるときには、裏面の「アフターサービスについて」も参照ください。

株式会社 ニコン
株式会社 ニコン イメージング ジャパン

Printed in Thailand

6MB14210-03